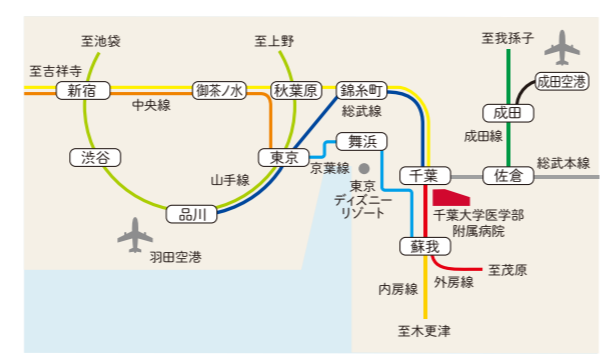


**車いすドライバー専用駐車スペース**  
 ※介助者が運転する車は、車いす利用者を正面玄関で降ろして一般駐車場をご利用ください。

# 千葉大学病院のご案内

## 2023-2024



**公共交通機関でお越しの場合**

JR千葉駅から	バス 約10分毎、所要時間約15分 東口正面7番のバス乗り場から「千葉大学病院」または、「千葉大学病院経由南矢作」行きバスに乗り、「千葉大学病院」で下車。
JR蘇我駅から	バス 約20~30分毎、所要時間約15分 東口2番のバス乗り場から「大学病院」行きバスに乗り、終点「大学病院」で下車。
京成電鉄 千葉中央駅から	タクシー 所要時間約10分

**自家用車などでお越しの場合**

京葉道路・松ヶ丘インターから所要時間約10分  
 外来駐車場は大変混み合います。  
 ご来院は公共交通機関のご利用をよろしくお願いいたします。

# Chiba University Hospital



**理念** 人間の尊厳と先進医療の調和を目指し、臨床医学の発展と次世代を担う医療人の育成に努める。

- 基本方針**
- 患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療を提供します。
  - 先進医療の開発と実践を目指します。
  - 社会・地域医療へ貢献します。
  - 人間性豊かな優れた医療人を育成します。

- 患者さんの権利と責務**
- 〈権利〉
- 人としての尊厳と権利が尊重され、個人情報保護されます。
  - 良質かつ適切な医療を公平に受けることができます。
  - ご自身の医療内容について、十分な情報提供と説明を受けられます。
  - セカンドオピニオンを希望される場合には、本院の情報を提供します。
  - 本院にて行われている臨床研究に関しては、研究に参加するか否かを自ら決定し、いつでも参加を中止することができます。

- 〈責務〉
- 医療は医療者との協同行為ですので、ご自身も療養に努めてください。
  - 適切な医療を受けるため、ご自身の情報を正確に医療者にお伝えください。
  - 本院が定める規則を遵守するほか、他の患者さんへの医療提供の支障とならないよう、配慮してください。
  - 良き医療者を育成するため、積極的に医療に参加し協力してください。

・医師の説明を求めることができる方は、患者さんご本人または予め病院に届け出られた代諾者のみです。  
 ・反社会的行為、特に暴力・脅迫・強要・性的嫌がらせなどがあった場合、職員の指示や警告に従わない時は、病院の規定に沿って対応いたします。

- 子どもの権利**
- 病院で治療をうけるこどもは、「こどもの権利」をもとに守られます。
- ひとりの人間として、思いやりのある医療を受けることができます。
  - 最も良い、安全な医療を受けることができます。
  - 病気のことや病気を治していく方法を、一人一人にあわせた言葉や絵などを使って、病院スタッフから説明を受けることができます。
  - わからないことや心配なことがあるときは、いつでも病院スタッフに話をすることができます。
  - 他の人に知られたくないことは秘密にできます。
  - 自分の体のことは、自分で決めることができます。
  - 入院しても、勉強したり遊んだりすることができます。
- ※病院スタッフ：医師・看護師・薬剤師・栄養士・リハビリ訓練士・保育士など



千葉大学病院  
公式キャラクター  
びなこちゃん

## 「戻す」のではなく、 新たな価値創造をめざすスタートの一年に

### 横手 幸太郎 病院長

私が病院長に就任したのは、2020年4月、新型コロナウイルスの正体もまだよくわからない中で、感染拡大が止まらず、初めての「緊急事態宣言」が発出された頃でした。それから3年、ようやくコロナも収束の兆しをみせ、2類相当から5類へと変更されるタイミングとなり、病院長として2期目を務めさせていただくこととなりました。皆さま、どうぞよろしくお願いいたします。

これからは、コロナ専用病棟は閉鎖し、通常診療に本格的に軸足を移していきます。とはいえ、直ちにコロナ対応がゼロになるわけではありませんので、人材の確保や医療資材の準備、必要性に応じた手術や検査の中止は変わらず、今後も何らかの支援をいただかなければ病院運営は立ち行かなくなります。

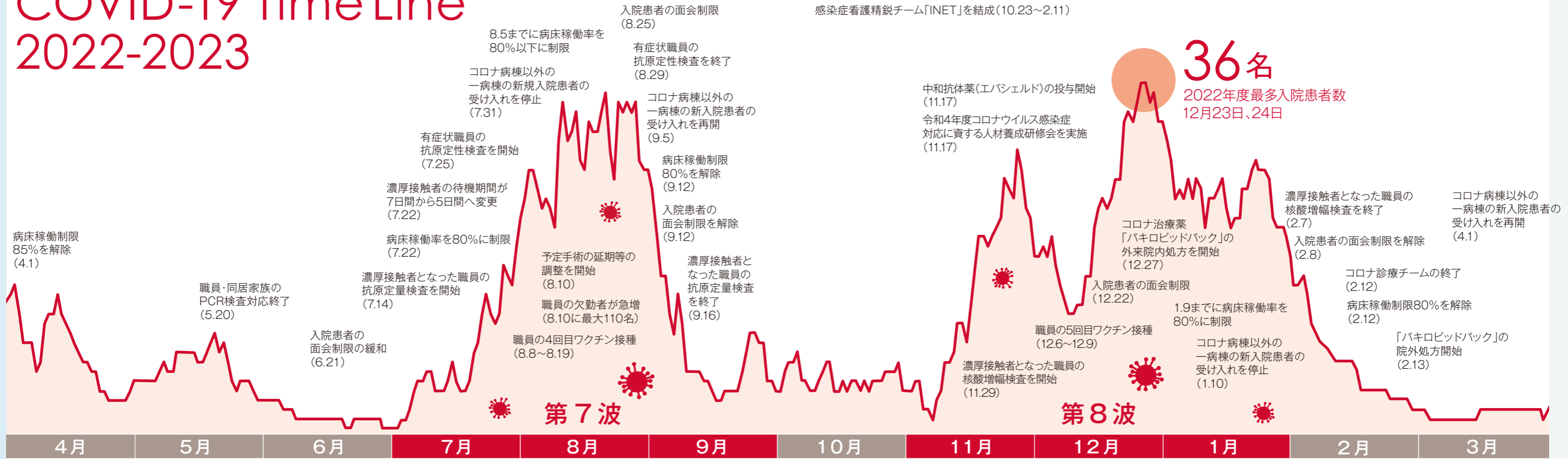
2024年度からは医師の働き方改革と呼ばれる時間外労働の上限規制が始まり、対応するための人件費やシステム費なども必要となります。光熱費や医療資材の価格高騰など、経営課題は山積ですが、こういう時こそ、さまざまな変革にチャレンジして、ピンチをチャンスに変えていけたら、と思います。

コロナ前に「戻す」のではなく、新たな価値を創造しながら、職員とともに、より良い病院を築いていけるよう、そのスタートを切りたいと思います。改めて、これまで3年間のご協力と応援に感謝申し上げますとともに、引き続き、ご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



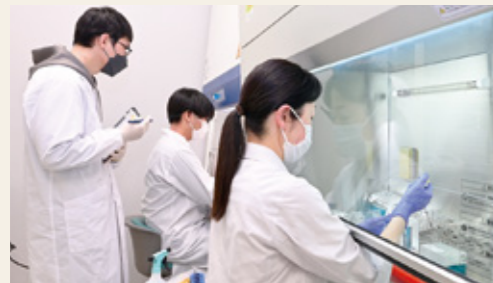
(写真左から) 花岡英紀副院長、金田篤志病院長補佐、筋内博子副院長、花澤豊行副院長、加藤直也副院長、中田孝明副院長、中島裕史副院長、猪狩英俊病院長補佐、小林欣夫副院長、横手幸太郎病院長、伊藤彰一病院長補佐、鈴木拓児副院長、大鳥精司副院長、相馬孝博副院長、井上貴裕副院長、小山田享史副院長、石井伊都子副院長、大塚将之副院長

# COVID-19 Time Line 2022-2023



## 2022.4.1 ヒト粘膜ワクチン学部門を設置

塩野義製薬株式会社との共同研究部門で鼻から噴霧し、病原体の侵入そのものを防ぐワクチンの研究開発、臨床応用の促進、人材育成に取り組みます。



## 2022.7.14~ 職員の抗原定量検査を開始

感染拡大時は、濃厚接触者の待機期間短縮を目的に、無症状の場合、抗原検査で陰性が確認できれば、出勤ができる体制を整えました。



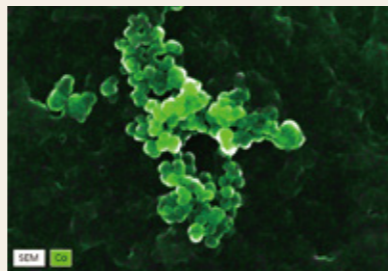
検体は自分で採取し、陰性確認の後に出勤。

## 2022.8.1 コロナ重症化の予測につながる研究成果を発表

当院と千葉大学大学院医学研究院「免疫発生学」研究グループ(中山俊憲学長ら)が2020年7月から取り組んできた「新型コロナウイルスの重症化メカニズムを解明する臨床研究」の成果が7月、国際医学雑誌のオンライン版に掲載されました。当院を含む11施設のコロナ患者さん130人から採取した血液を調べたところ、新型コロナウイルスが肺の血管に直接感染し、血管が傷ついて血栓をつくること、それに伴って放出されるミルナインというタンパク質が高い人ほど重症度も高いことがわかりました。今後は企業との連携により、簡易測定キットの開発やミルナインを標的にした治療薬の開発などが期待され、さらに入院の必要性がある人に必要な治療を行うことで、医療逼迫の防止にも貢献が期待されます。



8月1日に当院で行った記者会見(右から平原潔 医学研究院教授、岩村千秋同院特任講師)



世界で初めて血管に感染した新型コロナウイルスの明確な可視化に成功(走査電子顕微鏡による撮影)

## ECMOカーが活躍しています！

コロナ重症患者にも使用される「エクモ(体外式膜型人工肺)」を取り付けた患者さんを安全に搬送し、時には災害対応にも出勤できる救命救急車両を、日本財団様、千葉銀行様のご支援で2021年11月に導入しました。エクモ等を必要とする重症患者さんの搬送や、救急現場での重症外傷患者さんの救助などに役立っています。



感染症看護精鋭チーム「INET」を結成(10.23~2.11)

中和抗体薬(エバシエルト)の投与開始(11.17)  
令和4年度コロナウイルス感染症対応に資する人材養成研修会を実施(11.17)

## 2022.10.23~2023.2.11 感染症看護精鋭チーム「INET」を結成



新たな看護体制「INET」(Infectious disease Nursing Elite Team)を結成しました。コロナ病棟の看護師を他病棟に再配置し、各病棟で感染対応の知識や経験を伝え、コロナ診療と一般診療の両立を目指しました。

## 2022.12.27~ コロナ治療薬「パキロビッドパック」 外来院内処方開始



同時に使えない薬が細かく定められているため、医師や薬剤師が連携して飲み合わせの確認作業を行っています。

## 2022.11.17 コロナ対応人材養成研修会を開催！ 県内医療従事者が病院運営を学ぶ

11月17日、千葉県内の医療従事者にコロナ禍の病院運営や感染対策などを学ぶ研修会を開催しました。座学だけでなく、実際のコロナ病棟の見学、実践を交えた感染対策のレクチャー、高機能シミュレーターを使った実習演習など、幅広い内容で行いました。



集中治療室における呼吸管理の実習演習風景



実際に当院で実施している感染対策を実演レクチャー

## 今後もコロナ対策と通常医療に取り組みます

この3年間、全病院をあげてコロナ対策を行ってきました。患者さんをはじめとする地域の皆様にご理解とご協力いただきましたことを感謝申し上げます。5月からは5類感染症に変更されましたが、終わったわけではありません。今後も地域医療の最後の砦として重症患者さんを受け入れます。また、コロナ以前の通常医療に戻り、高度先進医療を必要とする患者さんへの診療を提供していきます。

- 入院患者数(2020年2月~2023年3月)1,062名
- PCR検査数(2020年2月~2023年3月)55,056件



猪狩英俊 感染制御部長

# What's new

2022.11

## 病気の子どもたちの心を癒す ドッグセラピーを開催!

コロナの影響で中止していた対面のドッグセラピーを当院小児科病棟で2年半ぶりに開催しました。最初は大型犬にびっくりしていた子どもたちも慣れてくると、そっと優しく頭をなでたり、耳やしっぽを触ったりして、2頭のわんちゃんたちとふれあいのひとときを楽しみました。

子どもたちに優しく頭を撫でられ、思わずにっこり。



(左から)  
ラブラドルレトリバーのりんちゃん  
と  
ドーベルマンのサファイアちゃん。



2022.6

## ウクライナ大使が病院訪問 療養中の避難民の方を お見舞い

ウクライナのセルギー・コルスンスキー駐日大使が当院を訪問し、ウクライナの首都キーウ近郊で住民の避難を支援中、ロシア軍による迫撃砲による大けがによって当院に入院していたアントン・コルニシュクさんを見舞い、当院への謝辞をいただきました。コルニシュクさんは、大学で日本語を学んでおり、指導教員やその友人たちを通じて、当院での療養が実現しました。



コルニシュクさん(左)を見舞うコルスンスキー大使、横手幸太郎病院長(中央)



評価調査者に説明を行う横手病院長(上写真中央)  
日本医療機能評価機構から交付された認定証(右)



2022.11

## 質の高い医療を 提供する病院として 病院機能評価の認定

公益財団法人日本医療機能評価機構が実施する第三者評価を受審し、病院機能評価(一般病院3)の認定を受けました。今後も患者さんの意思を尊重した安心・安全な医療を提供するために努めてまいります。

## ご寄附のお願い

患者さんに高度で先進的な医療を提供するため、機器や材料の購入、医療スタッフの技術習得のために使わせていただきます。

### コロナ対応(治療・研究)

コロナ対応と通常診療を継続し、地域医療に貢献するとともに、医学研究院(医学部)と連携してコロナワクチンセンターを開設し、ワクチンの研究を行い、成果を発信します。

### 先進医療の提供

大学病院ならではの高難度医療を提供するため、最新の機器・設備を整えます。また患者さんにとって安全・安心な受診空間の確保、快適で過ごしやすい病院づくりに役立てます。

### 医療者の技術取得

医師、看護師、薬剤師など医療者が技術を習得するために必要なシミュレーターの購入・研修環境の整備などを行います。

いただいたご寄附の金額

# 161,836,194円

(2022年4月~2023年3月)



### 税制法の優遇措置

個人の場合、寄附金額の2,000円を超える部分について、当該年所得の40%を限度に所得控除の対象となります。寄附金を受領後、確定申告に必要な「領収書」をお渡しいたしますので控除証明書としてご利用ください。法人の場合、寄附金額の全額損金算入が可能です(一般の寄附金に係る損金算入限度額とは別枠)。

### ご寄附の方法

金融機関からの振り込みまたはクレジットカード決済でお受けします。

### ご寄附のお申込み・お問い合わせ

千葉大学病院 研究推進課研究企画係

TEL:043-226-2603

E-Mail:byoin-kkikaku@chiba-u.jp

<https://www.ho.chiba-u.ac.jp/hosp/about/kifu.html>



## たくさんのご支援ありがとうございました



株式会社帆風様よりマスクスタンドをいただきました。



くるむの小さな応援団様より低出生体重児用肌着をいただきました。



千葉市商工会議所女性会様より七夕飾りをいただきました。



クオール薬局様、とまと薬局様、同仁会様をはじめ、多くの皆様のご寄附で整備した中庭「れんがの庭」。

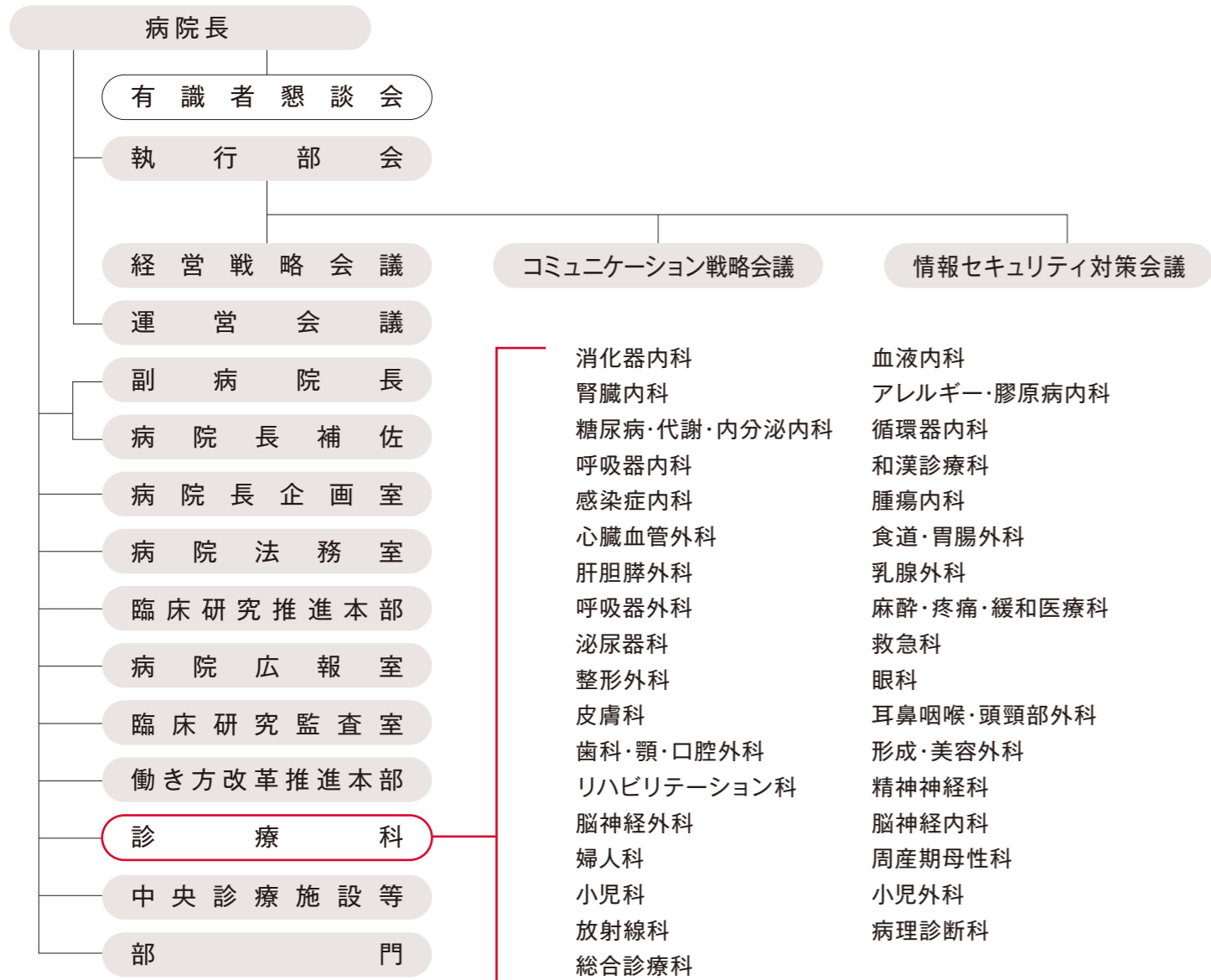


千葉銀行従業員組合様より車いすをいただきました。



株式会社アレスコ様、千葉興業銀行様より私募債を通じた寄附金を寄贈していただきました。

# Organization Chart 機構図



## History 沿革

1874年7月(明治7年) 千葉、登戸、寒川の有志の拠金により共立病院を設立	2004年4月(平成16年) 国立大学法人法の施行により国立大学法人へ移行
1876年10月(明治9年) 公立(県立)千葉病院と改称、医学教場を附設	2007年9月(平成19年) 新病棟(ひがし棟)竣工(2008年5月開院)
1882年7月(明治15年) 公立千葉病院を改組し、県立千葉医学校及び附属病院設置	2009年6月(平成21年) 病棟(みなみ棟)改修(7月開院)
1888年3月(明治21年) 県立千葉病院と改称	2011年2月(平成23年) 病棟(にし棟)改修(4月開院)
1922年4月(大正11年) 県立千葉病院を医学専門学校附属病院と改称	2014年5月(平成26年) 新外来診療棟竣工(7月開院)
1923年4月(大正12年) 官制改正により官立千葉医科大学附属病院と改称	2015年4月(平成27年) 外来診療棟改修(7月開院)
1949年5月(昭和24年) 千葉大学医学部附属病院と改称	2016年4月(平成28年) 病棟(みなみ棟)改修(4月開院)
1977年12月(昭和52年) 新病院竣工(1978年3月開院)	2017年1月(平成29年) 救急外来棟竣工(4月開院)
	2020年9月(令和2年) 新中央診療棟竣工(2021年1月開院)

## 診療科のご案内

各診療科を詳しくご覧になりたい方はこちらから [Search...](#) 千葉大病院 診療科

### 消化器内科

加藤 直也 科長



消化器疾患全般で負担が少なく質の高い最良の医療の提供を心がけています

#### 対象疾患

- ・ウイルス性、非ウイルス性肝疾患
- ・胆石や膵石などの結石症
- ・門脈圧亢進症
- ・潰瘍性大腸炎
- ・肝・胆・膵・消化管の悪性腫瘍
- ・クローン病
- ・食道・胃十二指腸・大腸の早期がん
- ・便秘などの消化管機能異常 など

#### 診療・研究内容

当科では、肝疾患、胆道系疾患、膵疾患、消化管疾患の診療を担当します。各学会が定めている診療ガイドラインを遵守したうえで、患者さんのニーズや価値観を考慮し、常に患者さんの目線に立った医療を心がけています。

- ・肝臓グループ: 肝炎や急性肝不全に対する治療、門脈圧亢進症に伴う食道胃静脈瘤や難治性腹水の治療、肝臓がんに対する穿刺治療、経血管治療、全身化学療法を行うとともに、基礎的研究・臨床的研究を進めています。
- ・胆膵グループ: 胆膵がんの内視鏡的治療と化学療法、難治性胆膵良性疾患の内科的治療、胆管結石・膵石の内視鏡的治療、Interventional EUSなどの診療および基礎的研究・臨床的研究を行っています。
- ・消化管グループ: 消化管腫瘍に対する内視鏡治療、難治性炎症性腸疾患に対する診療および基礎的研究・臨床的研究を行っています。

### 腎臓内科

浅沼 克彦 科長



高度な医療を提供するだけでなく、安全で質の高い医療を実践します

#### 対象疾患

- ・慢性腎臓病(CKD)
- ・急性腎障害(AKI)
- ・慢性糸球体腎炎
- ・ネフローゼ症候群
- ・糖尿病性腎臓病(DKD)
- ・多発性嚢胞腎等の遺伝性腎疾患
- ・膠原病・血管炎等に伴う腎障害
- ・腎代替療法(血液透析等) など

#### 診療・研究内容

慢性腎臓病は、蛋白尿や血尿が出たり、腎臓の働きが低下したりする状態を表します。進行すると、腎不全により血液透析などの透析療法が必要となりますが、生活習慣の改善や治療を早期に行うことで、透析療法の回避や、透析療法までの期間を延ばすことができます。私たちは、腎臓の組織を詳しく調べる検査を行い、早期にその原因を見つけ、患者さんに対処法やより良い治療法を提供しています。また、急性腎障害は、急激に腎臓の働きが落ちる病態のため、他診療科と緊密に連携し、速やかに原因検索を行い、原因除去や治療を行っています。現在、iPS細胞から腎臓を再生するという試みがされている一方、慢性腎臓病から腎不全へと進行し、透析が導入される患者さんは増え続けているため、慢性腎臓病に対する新規治療薬の開発が望まれています。私たちは、なぜ慢性腎臓病が進行するのか、基礎研究を通して解明し、慢性腎臓病の進行を予測する新しいバイオマーカーの開発と新規治療薬の創出を目指した研究を行っています。また、透析患者さんを含めた、慢性腎臓病患者さんの健康寿命の延長のために臨床研究を行っています。

### 血液内科

堺田 恵美子 科長



患者さんとご家族が安心して受けられる高度な医療を提供します

#### 対象疾患

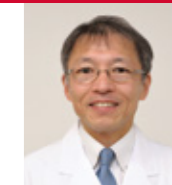
- ・造血器悪性腫瘍: 急性・慢性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、骨髄増殖性腫瘍、POEMS症候群、ALアミロイドーシス
- ・貧血・血小板疾患・凝固異常: 再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病 など

#### 診療・研究内容

当科では急性および慢性白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫などの血液の病気の診断と治療を行っており、日本骨髄バンク、日本さい帯血バンクとも連携し、非血縁者間移植、HLA半合致移植など様々な造血幹細胞移植を行っています。2018年には造血細胞移植センターがオープンし、造血細胞移植センター移植後長期フォローアップ(Long-term Follow Up, LTFU)外来では、体調面の問題のみならず社会復帰やリハビリ、こころのケアなど、移植を専門とする医師・看護師・薬剤師が相談に応じ、移植後の患者さんのサバイバーシップを支えています。造血幹細胞移植以外にも、白血病・悪性リンパ腫・多発性骨髄腫・骨髄増殖性疾患などに対する国内外の臨床試験(治験)を行っています。さらに2021年より革新的免疫細胞治療薬であるCAR-T療法も当院で施行可能となりました。臨床・基礎研究においては、多発性骨髄腫の微小残存病変と予後に関する研究、POEMS症候群・ALアミロイドーシスの病態解明や新規治療につながる研究を行っています。

### アレルギー・膠原病内科

中島 裕史 科長



科学的視点に立ちつつも心が通う、総合的な内科診療を行います

#### 対象疾患

- ・アレルギー疾患: 食物アレルギー、気管支喘息、アナフィラキシー
- ・膠原病・膠原病類縁疾患: 強皮症、関節リウマチ、血管炎症候群、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎/皮膚筋炎
- ・好酸球増多疾患や原因不明熱等の鑑別診断 など

#### 診療・研究内容

・喘息・アレルギー診療: 喘息の治療はピークフロー測定による管理と診療ガイドラインに沿った吸入ステロイドを中心に行い、難治性喘息では分子標的薬治療を行います。食物アレルギー、アナフィラキシー、好酸球増多性疾患を多く診ています。

・膠原病・リウマチ診療: 膠原病に伴う間質性肺炎、中枢神経病変等の早期診断とその治療を行います。関節リウマチには、抗リウマチ薬に加え、分子標的薬を用いた治療も積極的に導入し、寛解を目指した治療を行います。関節エコーを用いた関節評価に多くの実績があります。治験・自主臨床試験にも積極的に参加し、難治病態の新規治療薬の開発を行っています。

・臨床研究: 気管支喘息の難治化機構の解明、関節リウマチ治療の最適化に関する研究、ANCA関連血管炎の寛解導入療法の確立等の臨床研究を行っています。

・基礎研究: 難治性喘息の病態の解明、自己免疫疾患の病態の解明、生物学的製剤の作用機序の解明、T細胞の分化機構の解明等の先進的な基礎研究を行っています。



## 糖尿病・代謝・内分泌内科

小野 啓 科長



健康長寿の実現を目指し、全身を診る内分泌・代謝診療を実践します

### 対象疾患

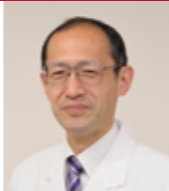
- ・1型・2型糖尿病、妊娠糖尿病
- ・脂質異常症、動脈硬化
- ・肥満症
- ・下垂体疾患・甲状腺疾患
- ・副甲状腺疾患・骨粗鬆症
- ・副腎疾患・性腺疾患
- ・原発性アルドステロン症
- ・早老症 など

### 診療・研究内容

- ・糖尿病：管理栄養士による食事・運動指導に加え、患者さんの特徴に応じた内服治療、GLP-1作動薬・インスリン治療を行い、網膜症や腎症、動脈硬化の予防に努めます。持続血糖モニタリングやこれと連動するインスリンポンプを用いた1型糖尿病治療、動脈硬化検査、フットケアなど、高度な技術と設備で対応します。
- ・脂質異常症：家族性高コレステロール血症や著しい高中性脂肪血症、低HDLコレステロール血症など、診断や治療が難しい病気に対応します。
- ・肥満症：食事・運動療法のほか、行動療法や新しい薬剤を含む薬物療法、胃縮小術も選択肢として、外科・臨床心理士を交えた多職種によるチーム医療で臨みます。
- ・内分泌疾患：先端巨大症などの下垂体疾患、バセドウ病、副甲状腺疾患、原発性アルドステロン症やクッシング症候群などの副腎疾患、そして性腺疾患やインスリノーマなど、高度な検査と治療を行います。
- ・早老症：ウエルナー症候群のほか、フレイル・サルコペニアに配慮した老年病診療を実践します。

## 循環器内科

小林 欣夫 科長



循環器疾患全般にわたり科学的な根拠に基づいた医療を提供します

### 対象疾患

- ・重症心不全
- ・先天性心疾患
- ・急性心筋梗塞・狭心症
- ・末梢血管疾患
- ・大動脈瘤・大動脈解離
- ・心臓弁膜症
- ・不整脈
- ・高血圧症 など

### 診療・研究内容

- ・冠動脈疾患治療部：虚血性心疾患分野を担当し、急性冠症候群の患者さんを24時間体制で受入れます。可能な限り低侵襲での心カテーテル治療(経皮的冠動脈形成術(PCI))を行っています。
- ・不整脈：患者さんを第一に考え、「優しい」そして優れた不整脈治療を目指しています。
- ・心不全：重症心不全の薬物療法、非薬物療法(植込み型除細動器・心臓再同期療法・補助循環装置・人工心臓・心移植)を行います。重症者には、心不全専門外来と訪問診療・訪問看護施設による院外診療連携を介し、包括的な心不全診療を行っています。
- ・弁膜症疾患：大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI)を行っています。また僧帽弁閉鎖不全症に対する経皮的僧帽弁クリップ術(MitraClip)を実施しています。
- ・高血圧：難治性高血圧に対する精査・薬物治療・栄養指導などを行っています。
- ・心臓画像診断：各種画像検査を通じ、形態学・生理学・代謝など多方面からの心疾患の診断・病態解析を行っています。

## 感染症内科

猪狩 英俊 科長



重症感染症、免疫不全感染症や渡航医学など幅広い感染症を診療します

### 対象疾患

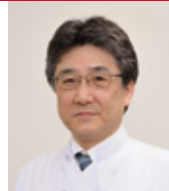
- ・一般感染症：細菌・ウイルス・結核・真菌(専門外来あり)・寄生虫
- ・HIV感染症：カウンセリングも含めた診療体制・セクシャルヘルス外来
- ・移植感染症：臓器移植前のコンサルテーション、移植後のマネジメント
- ・輸入感染症：旅行後の感染症、新型インフルエンザ対応など
- ・渡航前相談：渡航前の予防接種・予防内服の相談 など

### 診療・研究内容

- ・外来診療では、HIV/AIDS、輸入感染症、結核などを診療しています。当院は第二種感染症指定医療機関です。
- ・診療体制は感染症全般に関するコンサルテーションとなっています。当科で入院のご相談は行っておりません。
- ・当院はエイズ中核拠点病院になっており、医師・看護師のほか、HIV感染症薬物療法認定薬剤師、カウンセラー、ソーシャル・ワーカーなどHIV診療に精通したスタッフが連携して治療にあたっています。HIV感染者の高齢化や生活習慣病が問題となっています。これらの問題を解決するための臨床研究を行っています。
- ・真菌症外来は、千葉大学真菌医学研究センターと連携して専門的な診断と治療を行っています。また治療や診断に関する基礎研究も行っています。
- ・免疫不全や免疫抑制剤を使用して抵抗力が低下した患者さんに発症する感染症に対応した診療を行っています。臓器移植前の感染症対策や移植後の感染症診療も行っています。
- ・2020年4月、セクシャルヘルス外来を開設しました。
- ・新型コロナウイルス感染症患者を初期から積極的に受け入れてきました。

## 腫瘍内科

滝口 裕一 科長



様々な悪性腫瘍の集学的治療とエビデンスを重視した質の高い診療を行います

### 対象疾患

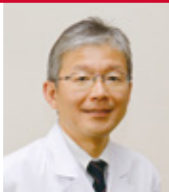
- ・がん症例全般 特に、原発不明がん、軟部肉腫、性腺外胚細胞腫瘍は、当科の専門性を活かした診療を提供
- ・肺がん・胸腺腫等の呼吸器系腫瘍 多くの治験・臨床試験・がんゲノム医療にも取り組み先端分野の治療を提供 など

### 診療・研究内容

- さまざまな悪性腫瘍の化学療法(抗がん薬による治療)・分子標的治療・免疫チェックポイント阻害治療などの薬物療法、および薬物療法と手術療法、放射線療法などを組み合わせた集学的治療を行っています。主な対象疾患は、各種固形がんの薬物療法・原発不明がんです。初回治療、再発治療を問わず、各種固形がんの薬物療法をそれぞれの疾患の標準治療に沿って行います。一般の病院、診療科では対応が困難なことの多い原発不明がん、性腺外胚細胞腫瘍、各臓器肉腫についても専門的治療を行います。またがんゲノムパネル検査も積極的にを行っています。専門性の高い診療科ですので、情報が極めて重要です。必ず紹介状をご持参ください。入院・外来診療では臓器を限定しないがんを対象としています。特に従来の臓器別診療体制のはざまに位置するような上記の疾患でお困りの場合にはご相談ください。外来化学療法にあたっては医師・看護師、薬剤師の緊密な協力が重要であることからチーム医療のモデル部署であると自負しています。病院全体のがん診療発展のため尽力しています。

## 呼吸器内科

鈴木 拓児 科長



常に先進かつ最良と考えられる呼吸器領域の医療を提供します

### 対象疾患

- ・間質性肺炎・びまん性肺疾患
- ・肺高血圧症
- ・呼吸器悪性腫瘍
- ・気管支喘息等のアレルギー疾患
- ・肺炎等の肺感染症
- ・慢性閉塞性肺疾患
- ・慢性呼吸不全
- ・肺移植適応疾患 など

### 診療・研究内容

- ・間質性肺炎・びまん性肺疾患：特発性間質性肺炎、肺胞蛋白症、リンパ脈管筋腫症等の難治性びまん性肺疾患の診断・治療を行います。
- ・肺がん：治療方針決定のための遺伝子検査などを実施し、呼吸器外科・放射線科・腫瘍内科とも連携しながら、最善と考えられる治療を提供します。臨床試験も多数実施しています。
- ・肺高血圧症：各種肺高血圧症の精査・治療を行います。重症肺高血圧症にも対応可能です。慢性血栓塞栓性肺高血圧症に対しては、肺動脈バルーン拡張術も実施しています。
- ・肺動静脈瘻、オスラー病、喀血：経カテーテル的コイル塞栓(肺動静脈瘻)・気管支動脈塞栓術(喀血)等の治療を行います。
- ・慢性閉塞性肺疾患/気管支喘息：気管支喘息に対しては気管支温熱療法も実施しています。
- ・肺移植適応疾患：多職種で構成される肺移植チームで肺移植登録のための適応評価を行っています。
- ・禁煙外来：禁煙を決意した方に支援薬の処方などで支援します。

## 和漢診療科

平崎 能郎 科長



「漢方」と「西洋医学」の両方の長所を取り入れた医療を心がけています

### 対象疾患

- ・西洋医学的異常はないが体調不良(冷え症、めまい感、虚弱体質等)
- ・西洋医学治療で十分な改善がない(アトピー性皮膚炎、花粉症等)
- ・西洋医学的診断が付いているが有効な治療法がない方  
例：慢性腎不全で透析には至らないが、次第に悪化傾向にある など

### 診療・研究内容

- ・漢方医学の病態解析：漢方医学独自の病態認識の意味することを科学的に解明していきます。
- ・漢方方剤の薬理学的研究：漢方方剤は複数の生薬を組み合わせて成り立っています。一生薬には様々な化学成分が含まれており、この生薬を複数組み合わせた漢方方剤は多成分系薬物です。漢方方剤を一つの薬物単位とみなし、その効果発現の機序を明らかにしようと考えています。勿論、この様な研究のプロセスで単一化合物の生理活性が浮き彫りになることもあります。新薬開発のように一つの活性物質を探索することを至上命題とはしていません。複雑系を複雑系として理解する方向で研究を進めています。
- ・漢方方剤の臨床研究：漢方医学は個々人の病態にきめ細かく対応する治療です。そこで、漢方治療が奏功した症例を治療経験として論文で発表しています。しかし、それでは「漢方方剤は本当に効くのか」という、西洋医学側からの疑問には十分に答えられません。そこで、症例集積研究や、無作為化試験なども行っています。また、国内外の漢方方剤に関するEBM情報を収集しています。

## 心臓血管外科

松宮 護郎 科長



患者さんの早期回復と長期の生活の質(QOL)の向上を目指した医療を実践します

### 対象疾患

- ・冠動脈疾患
- ・重症心不全
- ・弁膜症
- ・肺血栓塞栓症
- ・大動脈瘤
- ・心房細動
- ・閉塞性動脈硬化症
- ・大動脈解離 など

### 診療・研究内容

- ・冠動脈疾患：人工心肺を使用しない手術・動脈グラフトの使用・有意な狭窄のある血管全てにバイパス(完全血行再建)を基本とした冠動脈バイパス術を実施。必要に応じて左室形成術・僧帽弁形成術・不整脈手術も併せて行い術後の高い生活の質を目指します。
- ・弁膜症疾患：心臓の弁の狭窄や閉鎖不全に対して、可能な限り自己弁を温存する弁形成術を実施。心房細動がある場合は不整脈手術も併せて実施。経カテーテル治療として大動脈弁狭窄症に対するTAVI、僧帽弁逆流に対するマイトラクリップを実施します。
- ・大動脈瘤：患者さんに負担が少ないステントグラフト治療を積極的に実施。急性大動脈解離は、的確な診断・適切な外科治療・術後ケアにより救命と病後の生活の質の向上を目指します。
- ・重症心不全：心機能が低下して内科的治療で十分な回復が得られない方には、補助人工心臓装着などを導入。千葉県で唯一の体内植込み型補助人工心臓装着および心臓移植実施認定施設です。
- ・慢性血栓塞栓性肺高血圧症：呼吸器内科と連携して外科治療を実施。血栓内摘除術により著明な症状改善が得られています。

## 食道・胃腸外科

松原 久裕 科長



人にやさしく、かつ質の高い最先端の医療を提供します

### 対象疾患

- ・食道がん・胃がん・大腸がんなどの悪性疾患
- ・食道アカラシア
- ・クローン病
- ・胃良性腫瘍
- ・肥満手術
- ・潰瘍性大腸炎
- ・腎移植 など

### 診療・研究内容

- ・食道・胃・小腸・大腸・肛門のがんの診断：内視鏡検査による微細病変の診断。ポジットロン検査によるリンパ節転移診断。超音波内視鏡検査による腫瘍の深達度診断。3次元CT検査による他臓器浸潤の診断。PETによるがんの診断。現在、国内で使用可能なあらゆる診断機器を駆使して、患者さんに負担とならないように、精密な診断を行います。
- ・食道・胃・小腸・大腸のがんの治療：腹腔鏡を用いた身体にやさしい手術、合併症の少ない、早期退院可能な手術をそれぞれの専門チームが専属で治療を担当します。早期がんに対しては、積極的に内視鏡手術を採用して患者さんの負担を軽減しています。また、ロボット支援手術や、重粒子線を用いた治療、免疫療法、温熱療法などの新しい治療法の開発も積極的にを行っています。
- ・病的肥満に対する腹腔鏡下スリーブ胃切除術も行い、肥満者に対する治療を内科と協力して行っています。
- ・腎移植も積極的に取り組んでいます。

## 肝胆膵外科

大塚 将之 科長



高度な専門的知識と手技を基盤とした積極的な治療を行います

### 対象疾患

- ・肝臓がん
- ・胆道がん(胆管がん、胆嚢がん)
- ・膵臓がん
- ・十二指腸がん
- ・転移性肝がん
- ・肝移植を要する肝硬変、肝不全
- ・肝内結石、胆嚢結石
- ・膵嚢胞性腫瘍などの良性疾病 など

### 診療・研究内容

- ・肝臓がん:肝細胞がんでは消化器内科と連携して外科治療はもちろん、化学療法やラジオ波焼灼療法などから最適な治療法を選択しています。肝内胆管がんや転移性肝がんでは外科切除と化学療法を組み合わせた集学的治療により高度進行病変に対する治療も積極的に行っています。
- ・胆道がん:肝門部領域胆管がんや胆嚢がんでは術前門脈塞栓術により術後肝不全を防ぎつつ積極的に手術を行って根治を目指すとともに、高度進行例に対しても術前化学療法と外科切除を組み合わせることで予後向上を目指しています。
- ・膵臓がん:血管合併切除などの積極的外科切除に加えて、術前術後の化学療法を併用することで予後改善に努めています。
- ・肝移植:千葉県唯一の脳死肝移植認定施設であり、肝硬変、原発性硬化性胆管炎、原発性胆汁性胆管炎、肝細胞がん、急性肝不全などに対して生体・脳死肝移植を行っています。
- ・その他:疾患によっては患者さんへの負担の少ない腹腔鏡を用いた肝切除や膵切除も積極的に取り入れております。

## 乳腺外科

長嶋 健 科長



最新の技術とエビデンスに基づいたがん治療を実践します

### 対象疾患

- ・乳がん
- ・その他の乳腺疾患 など

### 診療・研究内容

- 当科では、個々の患者さんに応じて、局所治療(手術および放射線治療)と全身治療(薬物治療)のバランスを重視した治療を行っています。また、看護師、薬剤師と協力しながらチーム医療を実践しています。
- 診断:マンモグラフィ・超音波・CT・MRIなどの画像診断や、細胞診・針生検を用いて、正確な病期診断を行っています。病変範囲特定が困難である非腫瘍性病変の局在診断には超音波画像fusion技術や独自に開発した仰臥位MRIマッピング技術を用いて精度の向上に努めています。
- 手術療法:根治性だけでなく、整容性も重視し、形成外科的手技を応用した乳房温存術や形成外科と連携して行う乳房再建に積極的に取り組んでいます。センチネルリンパ節生検を早期から導入し、近年では遺伝性乳癌に対するリスク低減手術も行っています。
- 薬物療法:周期期から再発治療まで、化学療法、内分泌療法および分子標的療法の中から最新のエビデンスに基づき、個々の患者さんに最適な治療を実践しています。

## 泌尿器科

市川 智彦 科長



先進的かつ多岐にわたる治療の選択肢を提示できるような心がけています

### 対象疾患

- ・前立腺がん、腎がん、膀胱がん、精巣がんなどの腫瘍性疾患
- ・前立腺肥大症、夜尿症、神経因性膀胱など下部尿路機能疾患
- ・副腎腫瘍などの内分泌疾患
- ・尿路結石症、男性不妊症、男性性機能障害 など

### 診療・研究内容

- ・尿路結石症グループ:体外衝撃波結石破砕術(ESWL)、内視鏡手術、シスチン尿症に関する基礎的研究を行っています。
- ・前立腺がんグループ:手術療法、放射線療法、ホルモン療法、抗がん剤療法、これらを組み合わせた集学的治療を行っています。ロボット支援前立腺全摘除術を行い、分子マーカーの探索にも取り組んでいます。
- ・尿路器腫瘍グループ:がんに対する集学的治療を行っており、腎がん、腎盂・尿管がん、膀胱がんにおけるロボット支援手術、尿路変更術では自排尿型新膀胱造設術も行っています。
- ・副腎、男性不妊症グループ:副腎腫瘍に対するロボット支援手術、精索静脈瘤に対する顕微鏡下手術、男性性機能障害に対する診断・治療を行っています。非閉塞性無精子症では顕微鏡下精巣内精子採取術を行っています。
- ・神経因性膀胱グループ:下部尿路機能障害に対する薬物療法、尿流動態検査、前立腺肥大症に対する薬物療法、外科的治療を行っています。

## 救急科

中田 孝明 科長



院内・院外で発生した重症患者さんに対し高度な救急・集中治療を提供します

### 対象疾患

- ・高エネルギー外傷・重症熱傷
- ・急性中毒
- ・敗血症・敗血症性ショック
- ・重症急性膵炎
- ・心停止
- ・多臓器不全
- ・重症心不全・呼吸不全
- ・昏睡型急性肝不全 など

### 診療・研究内容

- 2019年4月1日より救命救急センターの指定を受け、重症救急患者さんに対し高度先進医療を行っています。また、救急隊員・救急救命士への指示や教育など、地域救急医療体制の中で中心的な役割を果たしています。さらに、救急現場に医師派遣が必要な場合は、千葉市消防局と協働して消防ヘリを活用した救急医療や救急車で出動するChiba Outreach Medical Emergency Team (COMET)を展開しています。
- 集中治療室(ICU)では救急患者さんのほか、複数の人工臓器補助療法が必要な患者さんや、重篤な心不全・呼吸不全に対する心肺補助療法を要する患者さんを県内外の施設から受け入れています。救急外来患者数は年間約6,000人で、救急科専門医は救急搬送される重症患者さんの初期診療と、ICUでの集中治療を行います。かかりつけの患者さんは各診療科の医師が対応しますが、救命処置を要する場合は救急科専門医が協力して初期診療やその後の治療を行います。

## 呼吸器外科

鈴木 秀海 科長代理



病状や状況に応じた最適な医療の提供を心がけています

### 対象疾患

- ・原発性肺がんや転移性肺腫瘍などの悪性腫瘍性疾患
- ・気胸・巨大肺嚢胞などの嚢胞性肺疾患
- ・胸腺腫を主とする縦隔腫瘍
- ・悪性胸膜中皮腫、胸壁腫瘍
- ・重症筋無力症、膿胸、縦隔炎
- ・肺移植を要する慢性進行性肺疾患 など

### 診療・研究内容

- ・原発性肺がん:超音波気管支内視鏡(EBUS)による縦隔リンパ節転移の診断を行い内視鏡治療から胸腔鏡下手術、拡大手術まで年間約200例の手術を行っています。局所進行性肺がんには術前導入療法や術後補助化学療法を行い、治療成績の向上に努めています。
- ・悪性胸膜中皮腫:石綿が主たる原因の予後の不良な胸膜中皮腫に対して術前化学療法+手術+放射線照射のtri-modality therapyを行い、治療成績の向上に努めています。
- ・重症筋無力症:脳神経内科と協力して、免疫抑制剤と手術を組み合わせた治療を行っています。
- ・呼吸器インターベンション:気道狭窄(悪性・良性)に対して症状改善・緩和を目的とし、内視鏡的治療を行っています。関東地区のセンターとして、遠方からの紹介も受け入れています。
- ・ロボット支援手術:外科的侵襲を縮小するロボット支援下手術を積極的にを行っています。
- ・肺移植:2013年に脳死肺移植認定施設となり、これまでに生体肺移植2例、脳死肺移植10例を行い、待機患者さんも増えています。

## 麻酔・疼痛・緩和医療科

田口 奈津子 科長代理



“苦痛を和らげる” “いのちを守る”それが麻酔科医の仕事です

### 対象疾患

- ・周期期外来(周期期管理センター)
- ・周術期ハイリスク外来
- ・ペインクリニック外来
- ・緩和ケア相談外来 など

### 診療・研究内容

- ・臨床麻酔:すべての患者さんが、安全かつ苦痛なく手術が受けられるように、周期期管理センターでは、手術室看護師とともに周期期外来を行うとともに、薬剤管理、リハビリ、口腔ケアなどの術前介入を多職種連携で系統的に実践しています。麻酔管理が困難と予想される患者さんには、ハイリスク外来で最適な麻酔管理を綿密に計画しており、小児から高齢者、12時間を超える長時間手術であっても、重篤な内科的全身疾患を合併していても最先端の外科治療を受けられるように麻酔管理、全身管理を実践し、患者さんの命を守っています。
- ・緩和ケア:がん性疼痛などの各症状に対し、薬物治療を中心とした緩和ケアを行っています。院内緩和ケアチーム、緩和ケアセンターでは、多職種で力をあわせ、身体及び精神的な症状の緩和、生活上の問題点などの援助を行います。
- ・ペインクリニック外来:難治性疼痛に対し、薬物治療、神経ブロック、光線治療器による治療などを組み合わせ、multi-modalな治療を行っています。

## 整形外科

大鳥 精司 科長



関連病院と連携し整形外科全般にわたる高度な医療を提供します

### 対象疾患

- ・腰部脊柱管狭窄症
- ・変形性股関節症
- ・頸椎性脊髄症
- ・変形性膝関節症
- ・肩腱板断裂
- ・脊柱側弯症
- ・上肢・手指外傷
- ・転移性骨腫瘍 など

### 診療・研究内容

- ・腰椎(腰椎専門外来):腰部脊柱管狭窄症、脊柱変形に対する手術治療を行っております。骨粗鬆症、サルコペニア、PRPに関する基礎研究および臨床研究を行っております。
- ・脊髄・頸椎(脊髄・頸椎専門外来):頸椎変性疾患、脊髄腫瘍に対する手術を行っています。脊髄損傷、脊椎脊髄画像診断に関する基礎研究を行っております。
- ・肩(肩・上肢専門外来):内視鏡手術を数多く行っております。外来では体外衝撃波治療を行っております。
- ・手(手外科専門外来):切指などの緊急手術にも対応しています。パフォーミングアーツ医学(PAM)の臨床研究、有限要素解析を用いた骨折や末梢神経再生に関する基礎研究を行っています。
- ・リウマチ・股関節(リウマチ・股関節専門外来):変形性関節症や大腿骨頭壊死に対する人工関節置換術を数多く行っております。股関節画像診断に関する研究を行っています。
- ・膝・スポーツ(足専門外来、スポーツ・膝専門外来):関節鏡手術から骨切り術、人工関節置換術まで幅広く取り扱っております。

## 眼科

馬場 隆之 科長



安全で良質な眼科医療を提供し、患者さんの「見える」を守ります

### 対象疾患

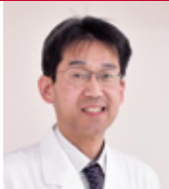
- ・網膜剥離
- ・糖尿病網膜症
- ・加齢黄斑変性
- ・緑内障、白内障
- ・ぶどう膜炎
- ・角膜疾患
- ・神経眼科
- ・眼高疾患(腫瘍や外傷) など

### 診療・研究内容

- ・網膜硝子体手術:当科で最も力を入れている分野であり、高度な技術を有する網膜硝子体専門医が、網膜剥離、増殖硝子体網膜症、増殖糖尿病網膜症、黄斑円孔、黄斑前膜等の手術を行っています。
- ・糖尿病網膜症:内科との綿密な連携の下、増殖網膜症に対し抗VEGF薬併用による網膜光凝固、硝子体手術を行っています。糖尿病黄斑浮腫に対し網膜光凝固、マイクロバルス療法、抗VEGF療法、硝子体手術など病状に適した治療法を行います。
- ・加齢黄斑変性:臨床、基礎研究に積極的に取り組み、病状に応じて抗VEGF療法や光線力学療法を行います。
- ・網膜色素変性:新規治療法の開発に積極的に取り組んでいます。
- ・緑内障:点眼治療でコントロール不良な緑内障に対して、積極的に手術を行っています。低侵襲緑内障手術から、重症例にはチューブシャント手術も行います。
- ・白内障:難治例に対して積極的に手術を行っています。
- ・角膜疾患:各種薬物療法に加え、千葉県アイバンクの協力の下、角膜移植を迅速に行う体制も整えています。

## 皮膚科

猪爪 隆史 科長



小児から高齢者まで、診断・治療の難しい皮膚疾患を幅広く診療します

### 対象疾患

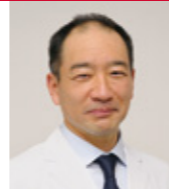
- ・アレルギー性皮膚疾患: 接触皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など
- ・自己免疫性疾患: 天疱瘡、類天疱瘡、円形脱毛症など
- ・皮膚悪性腫瘍: 悪性黒色腫、基底細胞がん、血管肉腫など
- ・炎症性角化症: 尋常性乾癬など
- ・皮膚感染症: 細菌、ウイルス、真菌感染など など

### 診療・研究内容

- ・アトピー性皮膚炎: 外用療法、免疫抑制剤内服、生物学的製剤など症状に応じて適切に治療を行います。
- ・乾癬: 外用療法、光線療法、レチノイドや免疫抑制剤など内服療法に加え、生物学的製剤による治療も行います。
- ・水疱症: 蛍光抗体法などの検査による診断確定後、ステロイドや免疫抑制剤、血液浄化法による治療を行います。
- ・リンパ腫: 主に菌状肉腫などを治療します。皮膚生検、全身検索施行後、病期を決定し、各病期に適した治療を行います。
- ・皮膚外科: ダーモスコピーや体表超音波検査、皮膚生検を行い、診断後、治療を行います。特に悪性腫瘍に対しては、手術療法その他、病期に応じて放射線療法や化学療法、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬を併用します。またセンチネルリンパ節生検も行います。
- ・円形脱毛症: 主に局所免疫療法、紫外線療法、ステロイド外用による治療を行っています。症状が強い場合には、ステロイド内服・点滴による治療も行います。

## 耳鼻咽喉・頭頸部外科

花澤 豊行 科長



患者さんが安心して任せられる 高度な医療を提供します

### 対象疾患

- ・鼻副鼻腔・口腔・咽喉・喉頭・唾液腺・甲状腺における腫瘍性疾患
- ・花粉症を含むアレルギー性鼻炎・慢性副鼻腔炎などの鼻関連疾患
- ・発声障害の原因となる声帯ポリープ・声帯麻痺などの喉頭関連疾患
- ・突発性難聴・顔面神経麻痺などの難治性耳関連疾患 など

### 診療・研究内容

- ・頭頸部がんの治療: 手術を中心に放射線療法と数々の化学療法を組み合わせて高い治療成績を取っています。また、腫瘍切除後の再建手術も独自に行っています。
- ・内視鏡下鼻内手術: 慢性副鼻腔炎だけでなく、鼻副鼻腔に発生した良性・悪性腫瘍に対しても高度な内視鏡下手術を導入しています。
- ・細胞免疫療法: 長年研究してきたNKT細胞を用いた免疫療法は、現在、iPS細胞を利用したNKT細胞治療として、頭頸部癌の再発患者さんに対して臨床試験中です。
- ・アレルギー性鼻炎(スギ花粉症): 当科が中心となって開発した舌下免疫療法に加え、新規治療法の臨床試験を行っています。
- ・喉頭および咽喉疾患: 発声障害の原因となる声帯ポリープ・声帯麻痺や症状が出にくい早期喉頭がんなどに対して内視鏡下手術も併用した治療を積極的に行っています。
- ・超音波診断: 唾液腺・甲状腺腫瘍や頸部リンパ節腫脹の早期診断や治療方針の確定に利用し、高い治療成績を生み出しています。

## リハビリテーション科

村田 淳 科長



傷病に伴う障害を医学的に診断治療し、早期機能回復と社会復帰を図ります

### 対象疾患

- ・脳卒中や脳腫瘍などの脳疾患
- ・脊髄症や脊髄損傷などの脊髄疾患
- ・変形性関節症などの骨関節疾患
- ・神経筋疾患
- ・切断
- ・小児疾患
- ・呼吸器疾患
- ・循環器疾患 など

### 診療・研究内容

- ・筋電図外来: 筋力低下、筋萎縮など脊髄や末梢神経、筋などの病気が疑われる患者さんに、診断や機能的予後の推測、リハビリテーション目標設定の参考のために、針筋電図および神経伝導検査を実施しています。
- ・嚥下造影検査: 嚥下障害の重症度評価のため実施しています。誤嚥の有無や誤嚥しにくい食形態や姿勢についての情報が得られ、経口からの食事をより安全に進めていくことができます。
- ・義肢装具療法: 医師の処方に基づいて、一人ひとりの状態に応じた義肢・装具を製作し、身体機能の改善や日常生活動作の向上のために必要な、義肢装具の選定や調整、使い方の指導等を行っています。身体機能や生活環境に最も適した物を作成するために、リハビリテーション科医、義肢装具士、理学療法士、作業療法士などによる総合的な診療を行っています。

## 精神神経科

伊豫 雅臣 科長



こころの病を対象に診療し、新しい治療に積極的に取り組んでいます

### 対象疾患

- ・統合失調症などの精神病的障害
- ・うつ病・双極性障害などの気分障害
- ・パニック症・強迫症などの不安症
- ・摂食障害
- ・認知症
- ・自閉スペクトラム症
- ・注意欠如多動症
- など

### 診療・研究内容

- 統合失調症、気分障害などは、根拠に基づき、合理的な薬物療法を行っています。麻酔科の協力のもと、電気けいれん療法も実践しています。県内医療機関と連携して入院によるクロザピン療法も実践しています。不安症や摂食障害などの治療には、認知行動療法を取り入れており、外来治療のほか、入院による集中的な治療も可能です。こどものこころ診療部と連携し、児童思春期の問題にも対応しています。薬物依存、認知症、器質性精神障害などでは、頭部画像検査、脳血流検査、脳波、神経心理検査などを用いて診断しています。新薬の治験、医師主導型自主臨床試験など、精神障害の病態解明や新しい診断法・治療法の開発と普及に取り組んでいます。

## 歯科・顎・口腔外科

鶴澤 一弘 科長



患者さん中心の 全人的かつ総合的な医療を提供します

### 対象疾患

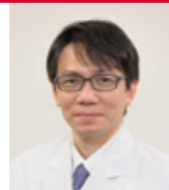
- ・口腔腫瘍、口腔粘膜疾患
- ・顎関節疾患(顎関節症など)
- ・炎症(顎骨炎、顎骨壊死など)
- ・顎変形症(反対咬合など)
- ・顎顔面インプラント治療
- ・外傷(顎骨骨折、歯の脱臼など)
- ・嚢胞性疾患(顎骨嚢胞など)
- ・鎮静下歯科治療 など

### 診療・研究内容

- ・口腔悪性腫瘍: 根治性を高めながらも、術後の機能障害を最小限にするため、日々手技の研鑽を行っています。また、各診療科と協力し、切除から再建、術後リハビリテーションまでを一貫して行います。
- ・インプラント治療: 一般的なインプラント治療も行いますが、悪性腫瘍手術により顎骨や歯の欠損を生じ、従来の方法では咀嚼機能の回復が困難な症例に対する治療を中心に行っています。
- ・顎関節疾患(顎関節症): X線CTやMRI、顎運動解析装置などを使用し、精査を行います。治療は薬物療法、スプリント療法を中心に低侵襲で、効果的な治療を選択して行っています。
- ・歯および歯周組織疾患(嚢胞や炎症など): 抜歯困難な智歯などの抜歯や嚢胞の摘出、炎症の消炎処置などを行っています。必要に応じて全身麻酔下での手術や入院が必要になることもあります。
- ・口腔健康管理: 全身麻酔手術や抗がん剤などの化学療法を受けられる方に対し、合併症の予防を目的とした口腔ケアを行っています。

## 形成・美容外科

三川 信之 科長



形態や色調異常を手術治療によって改善し、生活の質(QOL)の向上を目指します

### 対象疾患

- ・頭蓋顔面骨変形、顎変形症
- ・口唇口蓋裂などの先天性異常
- ・乳房再建などの各種再建手術
- ・顔面神経麻痺
- ・手・足の先天異常
- ・熱傷と熱傷後瘢痕拘縮
- ・顔面外傷、顔面骨骨折
- ・褥瘡、四肢の潰瘍 など

### 診療・研究内容

- 当科は体表のあらゆる形態異常や色調異常を手術治療によって改善し、患者さんの精神的負担を軽減させ、社会に復帰してもらうことを目的としています。特定の臓器のみを対象とするものではなく、全身を扱うため、全身の形態、機能についてあらゆる知識を有してはなりません。患者さんが社会復帰し、前向きな人生を再び歩み出していけるよう、より良い診療を提供します。
- ・頭蓋顔面外科: 頭蓋縫合早期癒合症・小顎症・上顎形成不全などに対し、上下顎骨切り移動、頭蓋骨延長術・眼窩骨切移動術および下顎骨延長術に積極的に取り組んでいます。
- ・小児先天異常: 口唇口蓋裂などの先天性形態異常に対する治療を行います。
- ・乳房再建: 乳癌切除後欠損に対する整容的修復術を行います。
- ・リンパ浮腫: リンパ管細静脈吻合術による治療を行います。
- ・体表の母斑や血管腫: レーザーまたは外科的治療を行います。
- ・眼瞼下垂: 挙筋前転法や吊り上げなどによる治療を行います。
- ・美容外科: 各種、美容的成形術を行います。

## 脳神経外科

樋口 佳則 科長代理



脳神経外科は皆様と共に歩み、脳と脊髄神経を守るべく手をさしのべます

### 対象疾患

- ・悪性脳腫瘍(グリオーマ等)
- ・間脳下垂体腫瘍
- ・脳室内病変および頭蓋底腫瘍
- ・くも膜下出血や脳内出血
- ・良性脳腫瘍(髄膜腫など)
- ・パーキンソン病
- ・三叉神経痛、顔面痙攣
- ・頸椎症などの脊髄外科疾患 など

### 診療・研究内容

- ・悪性脳腫瘍: グリオーマ、悪性リンパ腫等に対して遺伝子発現解析などを用いて個々に治療計画を立て、手術、化学療法、放射線治療を行っています。
- ・間脳下垂体腫瘍: 経鼻的内視鏡手術を数多く行っています。先進技術を用いた低侵襲治療を行っています。
- ・頭蓋底腫瘍、脳室内腫瘍: 頭蓋底部髄膜腫等に対して、神経内視鏡も併用し、低侵襲な手術が可能です。
- ・機能的疾患、難治性疼痛: 三叉神経痛や片側顔面痙攣に対して微小血管神経減圧術を行っています。パーキンソン病や各不随意運動についても治療を行っています。四肢の難治性疼痛において脊髄刺激治療を行っています。
- ・脳血管障害(包括的脳卒中センター): くも膜下出血などの出血病変および超急性期脳梗塞に対して救急治療を行っています。また脳動脈瘤や内頸動脈狭窄症の予防的治療を行っています。
- ・脊椎脊髄疾患: 頸椎症、靱帯骨化症、腰部脊柱管狭窄症、腰椎すべり症に対して治療を行っています。

## 脳神経内科

桑原 聡 科長



脳・神経・筋疾患全般にわたり 先進的な医療を提供します

### 対象疾患

- ・脳卒中
- ・パーキンソン病
- ・筋萎縮性側索硬化症
- ・脊髄小脳変性症
- ・認知症
- ・多発性硬化症
- ・重症筋無力症
- ・末梢神経疾患 など

### 診療・研究内容

- ・認知症: アルツハイマー病などの認知症性変性疾患を対象に、治療やケアを提供しています。核医学検査など先進的な手法を用いた研究を行っています。
- ・パーキンソン病: パーキンソン病などの錐体外路系疾患を対象とした診療を行っています。患者さんの状態に応じて、薬物療法やリハビリテーション、脳深部刺激療法等を提案します。
- ・末梢神経疾患: 様々な末梢神経疾患の診療を行っています。正確な診断と最善の治療を提供することを心がけています。病態研究や新規治療開発も積極的に行っています。
- ・多発性硬化症: 多発性硬化症、視神経脊髄炎などを対象とした専門外来を行っています。新規治療の治験へも積極的に参画しています。免疫学的なアプローチによる病態研究を積極的に行っています。
- ・重症筋無力症: 国内有数の患者さんの診療にあたっています。生物学的製剤などの新規治療開発を行っています。病態解明に関する基礎的研究も精力的に行っています。



## 婦人科

甲賀 かをり 科長



女性の健康と生活の質の向上を生涯にわたって総合的に支援します

### 対象疾患

- ・子宮頸がん
- ・子宮体がん
- ・卵巣がん
- ・絨毛性疾患
- ・子宮筋腫
- ・子宮内膜症
- ・不妊症
- ・月経・ホルモン異常 など

### 診療・研究内容

- ・子宮頸がん: 病気や症状に応じて、最も適切な治療を行います。初期がんには子宮温存療法を、進行がんには拡大手術・放射線治療などを行います。
- ・子宮体がん: 早期では、腹腔鏡手術・ロボット支援手術による低侵襲手術や妊孕性温存治療を行います。
- ・絨毛性疾患: 次回妊娠にも配慮した治療を行います。
- ・卵巣がん: 腹腔内に広がった進行卵巣がんには、専門の手術チームによる拡大摘出手術で切除し、治療成績を向上させています。
- ・生殖内分泌・不妊: 思春期・ホルモン・更年期の異常や月経関連疾患に対する専門的診断・治療を行います。体外受精や子宮・腔の奇形に対する手術、帝王切開癒痕部の修復手術を行います。若いがん患者さんに対する妊孕性温存治療を行います。
- ・良性腫瘍: 子宮筋腫や腺筋症・子宮内膜症・卵巣嚢腫に対して、腹腔鏡手術・子宮鏡手術を実施します。大きな子宮筋腫に対してもできる限り子宮を残す治療を行います。

## 周産期母性科

甲賀 かをり 科長



様々な病気を抱えたお母さんや赤ちゃんに安心していただける高度な医療を提供します

### 対象疾患

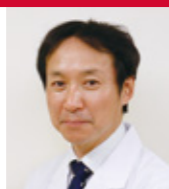
- ・合併症妊娠(糖尿病、高血圧、膠原病など)
- ・妊娠合併症(妊娠高血圧症、多胎妊娠、胎盤異常など)
- ・胎児異常 など

### 診療・研究内容

- ・周産期母性科では、総合周産期母子医療センターとしてハイリスク妊娠などの管理を行っています。
- ・母体: 妊娠前から病気のある方や、妊娠中に高血圧や糖尿病などの病気を発症した妊婦さんについて、内科、外科、精神科、小児科などと連携して妊娠分娩管理を行います。MFICU(母体胎児集中治療室)では、県内各地域からの搬送を受け入れ、24時間体制でハイリスク妊娠の治療にあたっています。産科危機的出血(分娩時大量出血)、妊産婦の意識障害などに対しては、コードむらさき、コードXなど救急救命システムを整備し、他科と連携して高度救命救急医療を提供しています。また、妊婦さんの薬相談や、出生前診断に関する相談に対応しています。
- ・胎児: 胎児疾患について、超音波検査やMRI等による精密診断を行います。出生後スムーズに治療できるよう、小児科・NICU、小児外科、千葉県子ども病院と連携して管理します。

## 小児科

濱田 洋通 科長



子ども達の味方です。お子さんとご家族が安心し、納得できる医療を提供します

### 対象疾患

- ・アレルギー疾患、膠原病、リウマチ、免疫不全症
- ・神経疾患、発達遅れ、てんかん
- ・新生児疾患
- ・感染症、感染予防
- ・心臓病
- ・血液疾患、小児がん
- ・成長障害、内分泌疾患、糖尿病 など

### 診療・研究内容

- ・一般小児疾患の診療のほか、慢性疾患、複合する病気のお子さんの診察を行っています。
- ・免疫・アレルギー: 気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、小児膠原病、原発性免疫不全症。食物経口負荷試験、生物学的製剤、急速経口免疫療法を行っています。
- ・感染症: 慢性の呼吸器感染症、尿路感染症、上部消化管機能異常、免疫不全症の感染予防、ワクチン相談。
- ・神経: てんかん、脳炎・脳症、脳変性疾患、ミトコンドリア病、Gorlin症候群。
- ・血液・腫瘍: 血液疾患、小児白血病・悪性リンパ腫・神経芽腫・横紋筋肉腫などの小児がん、造血幹細胞移植を行っています。
- ・循環器: 先天性心疾患、川崎病、心臓検診、成人先天性心疾患。
- ・内分泌: 低身長・成長障害、性発達異常、甲状腺疾患、小児糖尿病など。
- ・新生児: 低出生体重児、病的新生児、疾病合併母体からの出生児をNICU・GCUで集中治療を行います。

## 小児外科

菱木 知郎 科長



小児における疾患臓器の機能回復と生活の質(QOL)の改善を重視します

### 対象疾患

- ・ヘルニア関連疾患
- ・新生児外科疾患
- ・消化器疾患
- ・肝胆道疾患
- ・泌尿生殖器疾患
- ・悪性固形腫瘍
- ・胸部外科疾患
- ・炎症性腸疾患 など

### 診療・研究内容

- ・新生児外科疾患: 出生前より他科と連携し、きめ細かな周産期医療を行います。出生後はNICU・GCUで集中治療を行います。
- ・小児悪性固形腫瘍: 小児血液腫瘍グループと腫瘍ボードを開催し、系統的に治療方針を決定します。
- ・肝胆道疾患: 難治性疾患である胆道閉鎖症の手術例数は100例を数え、最近の術後脱糞率は80%と良好な成績を収めています。研究面では免疫学的側面からの病因解明を目指しています。
- ・先天性消化管疾患: 食道閉鎖症・直腸肛門奇形・ヒルシュブルング病に対する定型的治療のほか、病因・病態や消化管機能の解明にも力をいれています。
- ・炎症性腸疾患: 血球成分除去療法や免疫抑制療法などの内科治療から、腹腔鏡手術を主とした外科治療まで一貫して行います。
- ・低侵襲手術: 胸腹腔鏡手術を積極的に導入し、侵襲の低減と術創の縮小をはかります。
- ・在宅経腸・中心静脈栄養: 在宅栄養療法を他施設に先駆け導入し、腸管機能不全や炎症性腸疾患に対し積極的に行っています。

## 放射線科

宇野 隆 科長



先端診療機器による画像診断と高精度がん放射線治療、血管内治療を行います

### 対象疾患

- ・肺がん
- ・頭頸部・食道・大腸がん
- ・乳がん
- ・肝臓・膵臓・腎臓がん
- ・前立腺がん
- ・転移性がん
- ・子宮頸がん
- ・その他のがん、甲状腺眼症・血管奇形 など

### 診療・研究内容

- ・画像診断: 4台のCT、5台のMRI装置を用いて正確な画像診断に努めています。画像データを元に手術のための3D・4D画像など再構成画像の作成も行っています。核医学部門では、PET-CT検査、各種脳SPECT検査など体の機能をみる検査を行っています。
- ・IVR: 血管内にカテーテルを入れて、血管造影検査を行います。その手技を用いた血管塞栓術、血管形成術、がんの抗がん剤塞栓治療、血管奇形の治療など低侵襲な各種血管内治療を行っています。
- ・外部照射: 放射線治療装置3台を備え、強度変調放射線治療、体幹部定位放射線治療などの高精度がん放射線治療をあらゆるがん患者へ提供しています。1.5T-MRリニアックによる新たなMR画像誘導即時適応放射線治療を行っています。
- ・小線源治療: 主に子宮頸がんに対する腔内照射や組織内照射を行っています。腔内・組織内併用の新しいアプリケータを用いてMRIによる3次元画像誘導小線源治療を行っています。

## 総合診療科

生坂 政臣 科長



診断のついていない症候や健康問題を有する患者さんの診療を行います

### 対象疾患

- 当科では総合診療を「診断のついていない症候や健康問題を有する患者さんの生物・行動・社会的な問題に対する、原因臓器に限定されない包括的な切り口での診療」と定義しています。原因臓器、紹介先診療科が特定できない患者さんを当科にご紹介下さい。

### 診療・研究内容

- ・診療
  - 1人の患者さんに複数の医師が携わる『チーム医療制』を導入して、診断不明とされた難解な症候や健康問題の解決を行っています。
  - ①外来診療: 2018年度より、当科初診外来は完全セカンドオピニオン制になりました(緊急時を除く)。患者さんの利便性に配慮してパソコンやスマートフォンを用いたオンラインセカンドオピニオン診療も行っております。
  - ②入院診療: 専門診療科に入院している患者さんの包括的評価と診療支援を行っています。
- ・研究
  - ①診断に関する研究として、問診や身体診察の操作特性、AI診断、遠隔診療、初学者と熟練医との診断プロセス、②医学教育に関する研究として、ICTを活用した身体診察と遠隔教育、③行動科学に関する研究として、患者受療行動、ドクターショッピング、かかりつけ医に関する研究等、総合診療あるいは診断推論学に関わる研究を多岐に渡って行っています。

## 病理診断科

池田 純一郎 科長



治療方針決定のために必須な病理診断を的確に提供し、高度な医療を支えます

### 対象疾患

- ・病理診断の対象となる疾患は、ほぼ全科にわたり種々の病変が含まれます。
- ・組織検体数では消化器疾患が最も多く、婦人科・呼吸器・耳鼻咽喉口腔・乳腺・泌尿器・血液などの疾患が続きます。
- ・細胞診断の対象としては子宮がんなどの婦人科、肺がんなどの呼吸器、膀胱がんなどの泌尿器疾患の頻度が高くなっています。
- ・剖検診断では上記の外科病理学的疾患のみならず、代謝性疾患や神経疾患など、病変全般が対象となります。

### 診療・研究内容

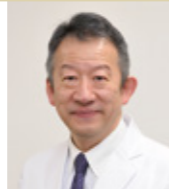
- ・病理診断を通じて治療方針決定、病勢判断、治癒予測や治療効果判定に重要な役割を担っています。また、臓器別カンファレンスや剖検CPCを行い、全科の医学教育に貢献しています。
- ・主要な業務には組織診断・細胞診断・剖検診断の3つがあります。組織・細胞診断の検体管理と標本作製・細胞診断スクリーニングは病理部技師により行われます。病理医は標本作製のための肉眼観察と組織切り出し・作製標本に基づく病理診断を行います。
- ・現在、当病理診断科・病理部・病理学教室がsubspecialtyとして診断・研究に力を入れている分野は次のとおりです。
- ・呼吸器病理: 特に肺がんを中心とした組織診断・細胞診断と臨床病理学的、分子病理学的研究
- ・血液病理: 悪性リンパ腫などの組織診断と臨床病理学的、分子病理学的研究
- ・悪性腫瘍の腫瘍幹細胞をターゲットにした病理学的研究





## 千葉県肝疾患相談センター

加藤 直也 センター長



当院は厚生労働省から千葉県唯一の肝疾患診療連携拠点病院として指定されています。千葉県肝疾患相談センターは、肝疾患診療をみなさまに広く周知し、医療水準の向上を図るため、2021年12月に多くの医療職種の協力のもと発展的に設立されました。千葉県における肝臓疾患の患者さん本人のみならず、市民の方、医療関係者を対象に、肝疾患や専門医療機関等についての医療情報の提供、収集や紹介、相談支援、研修会や講習会の実施等を行っています。対面や電話での相談に加え、時代に合わせたインターネット上での情報提供も積極的に行っています。患者さん一人ひとりに合わせた方法での相談支援を通じて、本人だけでなくご家族やパートナーの支援に寄り添います。



## 千葉県がん・生殖医療相談支援センター

市川 智彦 センター長



千葉県から委託を受け、2021年12月1日に千葉県がん・生殖医療相談支援センターが設置されました。小児・AYA世代などの妊娠・出産が可能ながんサバイバーは、化学療法、放射線療法などの抗がん治療によって、将来の妊娠に必要な生殖能力が損なわれることがあります。当センターでは、原疾患の治療（抗がん治療）が生殖機能におよぼす影響を正しく理解することや、将来妊娠・出産できる可能性を残す治療法（妊孕性温存療法）についての意思決定を支援します。「妊孕性温存療法」では抗がん治療を行う前に、卵子や卵巣・精子など生殖に関わる細胞や組織を採取・保存しますが、必要な情報を提供するとともに県内の機関とも連携しながらがんサバイバーの妊孕性温存を支援します。



## 認知行動療法センター

清水 栄司 センター長



認知行動療法は、認知（考え方）、行動、感情（気持ち）、身体反応の悪循環を見直し、好循環に変える問題解決を通じて、生活の質（QOL）の改善を目指す心理療法（精神療法）です。うつ病、不安症、強迫症、不眠症、慢性疼痛、摂食障害、統合失調症、発達障害等に対する効果が報告されています。医師、公認心理師、看護師等が週1回50分の対面でのマンツーマンのセッションを16～20回程度、提供します（公的医療保険は適用外です）。オンラインでの提供も行っています。デジタルメンタルヘルスの研究拠点として、子どものこころの発達教育研究センター、医学研究センター認知行動生理学と連携し、さまざまな臨床研究に取り組んでおり、認知行動療法のさらなる発展に努めています。



## 糖尿病コンプリケーションセンター

小野 啓 センター長



糖尿病は、自覚のないまま血管や神経の障害が進み、盲目症、腎症、精神障害、動脈硬化による狭心症や脳卒中などの合併症（コンプリケーション）を併発します。当センターでは、糖尿病・代謝・内分泌内科が、循環器内科や脳神経内科、形成外科、腎臓内科などと連携しながら、看護師、理学療法士、管理栄養士など多職種による運動療法や食事療法、薬などを組み合わせて治療しています。肥満症の方がなかなか減量できない場合は、食道・胃腸外科と連携して、腹腔鏡で胃の大部分を切除する肥満外科手術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除）を行います。糖尿病教室（月1回）、フットケア外来（月5回）なども行い、「糖尿病の合併症を起こさない、悪化させない」を目指して患者さんに並走しています。



## 検査部

松下一之 部長

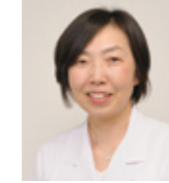


検査部では、日常診療に必要な検体検査（血液・尿・髄液など）情報を24時間体制で正確かつ迅速に提供すると同時に、心電図、超音波、呼吸機能をはじめとする各種生理機能検査を担当しています。2016年3月には、臨床検査室に特化した国際規格であるISO 15189の認定を受け、国際的な治験、臨床共同研究、論文投稿や病院機能評価にも寄与しています。2021年にはポストゲノム時代の臨床検査を目指し、遺伝子検査室の一角にポストゲノム解析センターが稼働しました。新型コロナウイルス（COVID-19）の感染抑制には正確で迅速なPCR検査が重要と考えており、検査部全体で病院や地域医療に協力しています。大学病院の医療に求められる高度先進検査の開発と実用化に向けて更なる信頼性の向上を目指しています。



## 薬剤部

石井 伊都子 部長



薬剤部は薬物治療の安全と安心のため、医薬品の調剤、安定供給、薬学的管理を基本業務としています。部内業務としては処方に対する鑑査と疑義照会、がん化学療法レジメン管理、薬物血中濃度測定と投与設計支援、問合せ対応、病棟での服薬指導、通院治療室での抗がん剤の鑑査と調製、手術部での医薬品管理・調製、PET検査用薬剤の品質検定、患者支援センターでの入院前薬剤チェック、治験薬管理出し等を院内各部署と連携して行っています。病棟で薬剤師が活動する目的は、患者さんへの薬学的管理や薬剤管理指導、病棟での医薬品管理です。これにより、薬による医療事故の防止や患者さん個別の状態に適した薬物療法が提示でき、より患者さん中心の医療が提供できるようになります。



## 看護部

筋内 博子 部長



「じぶんらしく生きる」を支え、未来をつくる」を理念に、急性期医療を受ける患者さんが、退院後にそれぞれが望む暮らしに戻ることができるよう、生活や人生に寄り添う看護の心を大切に、専門職として責任のある看護を実践しています。また、院内外の関係職種と連携し、病院から在宅まで切れ目のない看護を継続しています。大学病院の使命として、人々の健康に幅広く貢献し続けることができるよう、多種多様な教育プログラムにより段階的な学びや自律的な学習のための環境を整え、次世代を担う看護師を育成しています。また、当院は看護師の特定行為研修施設であり、患者さんの生命と生活の質向上に向けて、回復を促進する特定行為の実施を目指しています。



## 東洋医学センター

勝野 達郎 センター長



東洋医学センターは、「千葉大学墨田漢方研究所」（東京都墨田区）と「千葉大学柏の葉鍼灸院」（千葉県柏市・柏の葉キャンパス内）の2か所で診療などを行っています。千葉大学墨田漢方研究所は、2023年1月に柏の葉診療所が柏市から墨田サテライトキャンパス内に移転し、新たな名称で開院しました。漢方内科、漢方皮膚科、漢方アレルギー科、漢方リウマチ科、漢方婦人科、漢方小児科、そして鍼灸治療室があります。自由診療で、「冷え」「ほてり」「虚弱体質」など、現代医学では説明のつかない症状でお困りの方や「難治性疾患」や「悪性腫瘍」などの治療を受けていて、補助療法を求めている方などに、通常の保険診療では扱えない生薬を用いた漢方薬治療を行っています。





中央診療施設等

検査部 松下一之 部長
正確・精密な臨床検査情報を24時間体制で迅速に提供します

手術部 長嶋 健 部長
安全で効率的な手術運営を行っています

放射線部 宇野 隆 部長
先端の放射線機器を用いた、安全かつ高度な医療を提供します

材料部 大鳥 精司 部長
安全な医療器材を確実に提供いたします

人工腎臓部 浅沼 克彦 部長
さまざまな疾患に対する血液浄化法を効果的かつ安全に施行します

集中治療部 大島 拓 部長
重症患者さんや大手術後の患者さんに対して、安全で高度な集中治療を提供します

輸血・細胞療法部 堺田 恵美子 部長
安全で適正な輸血を推進し、高度な細胞療法を提供します

冠動脈疾患治療部 小林 欣夫 部長
急性心筋梗塞や狭心症などの虚血性心疾患の診断と治療を24時間体制で行います

病理部 池田 純一郎 部長
組織・細胞診断を通じて治療方針の決定、病勢判断、治癒予測、治療効果判定に重要な役割を担います

内視鏡センター 加藤 順 センター長
最新の内視鏡システムによる高度な医療を安全かつ適切に提供します

リハビリテーション部 村田 淳 部長
リハビリテーションアプローチにより生活機能や生活の質の向上を図ります

こどものこころ診療部 伊豫 雅臣 部長
こどものこころの病を対象に診察し、新しい治療に積極的に取り組んでいます

臨床工学センター 中田 孝明 センター長
院内内の医療機器が、安全に使用できるように努めます

臨床腫瘍部 滝口 裕一 部長
有効で安全ながん薬物療法を行い、高い生活の質(QOL)を保てる医療を提供します

遺伝子診療部 市川 智彦 部長
遺伝や遺伝病についての悩み・不安に対応し、遺伝学的検査の最新情報を提供します

認知症疾患医療センター 桑原 聡 センター長
認知症の診断、治療、介護指導、地域連携システム構築を行います

アレルギーセンター 中島 裕史 センター長
アレルギー疾患についての総合的な診断・治療を行い、発症予防法の確立を目指します

周術期管理センター 大鳥 精司 センター長
手術を安心して、安全に受けていただくために、多職種チームが支援します

高齢者医療センター 生坂 政臣 センター長
健康長寿を実現する医療を目指します

糖尿病コンプリケーションセンター 小野 啓 センター長
あらゆる糖尿病合併症の制圧を目指して取り組んでいます

緩和ケアセンター 田口 奈津子 センター長
多職種で連携し、治療と両立した緩和ケアを提供します

包括的脳卒中センター 田島 洋佑 センター長代理
多職種間連携と最先端医療を組み合わせ最良の脳卒中診療を実現します

周産母子センター 大曾根 義輝 センター長
小さな赤ちゃんたちの健やかな成育とご家族の笑顔のために

肺高血圧症センター 鈴木 拓児 センター長
豊富な診療経験に基づき、質の高い肺高血圧症診療を提供します

認知行動療法センター 清水 栄司 センター長
医師・公認心理師・看護師等が連携し、個人認知行動療法を対面や遠隔で提供します

ブレストセンター 長嶋 健 センター長
乳がん診療に特化したチーム医療を推進し、質の高い医療を提供します

造血細胞移植センター 堺田 恵美子 センター長
多職種による包括的な移植チームが円滑かつ質の高い移植医療を提供します

画像診断センター 藤本 肇 センター長
適切な画像検査と画像診断体制を構築し、安全で安心できる医療の提供に努めます

スポーツメディクスセンター 大鳥 精司 センター長
スポーツに関連したトッパースリート、県民のメディカルサポートを目指します

救命救急センター 中田 孝明 センター長
重症患者さんを24時間体制で受け入れ、院内の力を結集した救命を目指します

ハートセンター 松宮 護郎 センター長
重症心不全をはじめとするあらゆる心血管疾患に対し、質の高い医療を提供します

痛みセンター 大鳥 精司 センター長
多診療科・多職種での総合的診察を行い、オーダーメイドの痛み治療を提供します

超音波センター 加藤 直也 センター長
超音波を用いた安心・安全かつ高水準な検査と治療で良質な医療に貢献します

コロナワクチンセンター 猪狩 英俊 センター長
新型コロナウイルス対策の“攻め一手”です。安全なワクチン接種を目指します

クオリティ・マネジメント・センター 花澤 豊行 センター長
臨床指標に基づいた組織横断的な改善活動を実施し、医療の質の向上を目指します

運営・教育・研究部門等

企画情報部 鈴木 隆弘 部長
病院情報システムの開発を進め、医療情報の連携と活用に取り組んでいます

医療安全管理部 相馬 孝博 部長
医療の安全性の向上に組織的に取り組んでいます

感染制御部 猪狩 英俊 部長
医療安全を感染対策の立場から支えています。新型コロナ対応に取り組んでいます

臨床試験部 花岡 英紀 部長
ともに創ろう、ともに歩もう。よりよい医療を創り社会へ届けることを目指します

患者支援部(患者支援センター) 竹内 公一 部長
患者さんが安心して適切な療養が送れるように外来・入院・退院を総合的に支援します

臨床栄養部 大塚 将之 部長
多職種共同でより良い食事提供と栄養管理により治療効果と生活の質向上を目指します

総合医療教育研修センター 伊藤 彰一 センター長
千葉大学病院及び地域で働く医療専門職の教育・研修をサポートします

東金九十九里地域臨床教育センター(東千葉メディカルセンター内) 伊藤 彰一 センター長
プライマリケア、救急診療、各専門診療の幅広い研修機会を提供します

未来開拓センター 本橋 新一郎 センター長
未来へ向けた新しい治療法の研究開発と実用化を目指します

国際医療センター 鈴木 拓児 センター長
世界水準の大学病院を目指し、医療の国際展開を推進します

臨床研究開発推進センター 横手 幸太郎 センター長
いまだ治療法が確立されていない疾患に対する新規治療開発を推進します

がんゲノムセンター 滝口 裕一 センター長
がんのprecision medicine(精密医療)と高度医療を提供します

メドテック・リンクセンター 林 秀樹 センター長
エンジニアとともに病院の中で新しい医療機器の開発を目指します

データセンター 花輪 道子 センター長
臨床試験のデータの信頼性を確保することで研究者を支援します

東洋医学センター 勝野 達郎 センター長
質の高い漢方薬治療と鍼灸治療を提供します

成田赤十字病院肺がん治療センター 澁谷 潔 センター長
成田赤十字病院と連携した新しい形のがん医療を“成田地区の肺がん診療”で実現します

病院経営管理学研究センター 井上 貴裕 センター長
戦略的病院経営を推進し、地域医療のさらなる健全化を目指します

浦安リハビリテーション教育センター 大鳥 精司 センター長
リハビリにおける、教育、研究、臨床の実践、健康寿命の増進を目指します

スタッフケアセンター 諏訪園 靖 センター長
患者さんへの良質な医療の提供のため、職員の心身の健康保持増進に努めます

移行期医療支援センター 桑原 聡 センター長
小児期から成人期へ、切れ目なく安心して医療を受けられるように支援します

医師キャリア支援センター 浅沼 克彦 センター長
持続可能な医療を提供するために、医師の多様な働き方を支援しています

千葉県肝疾患相談センター 加藤 直也 センター長
千葉のみならず肝臓のことをもっと知ってもらうよう広報や相談の活動をしています

千葉県がん・生殖医療相談支援センター 市川 智彦 センター長
妊孕性温存療法について必要な情報を提供し適切な医療が受けられるよう支援します

未来粘膜ワクチン研究開発センター 清野 宏 センター長
痛くない吸う・飲むワクチン開発研究を進めています

薬剤部 石井 伊都子 部長
医療チームの一員として他職種と連携し良質な薬物治療の提供に貢献します

看護部 箭内 博子 部長
生活者としての患者さんを軸に、持てる力を発揮できるように支援します

事務部 小山田 享史 部長
6課体制のもとそれぞれが連携しつつ、より機動的で円滑な病院運営に取り組んでいます

病院長企画室 井上 貴裕 室長
医療の質と経済性を両立するための分析、企画、そして実行を支援していきます

毎年「経営戦略」を定め、より良質な医療の提供と病院経営の効率化に取り組んでいます。



名称 千葉大学医学部附属病院 (2023年4月1日現在)  
 所在地 千葉県千葉市中央区亥鼻1-8-1  
 病床数 850床  
 敷地面積 78,537.72㎡ ※医療法上  
 建物(延面積) 140,030.11㎡ ※医療法上

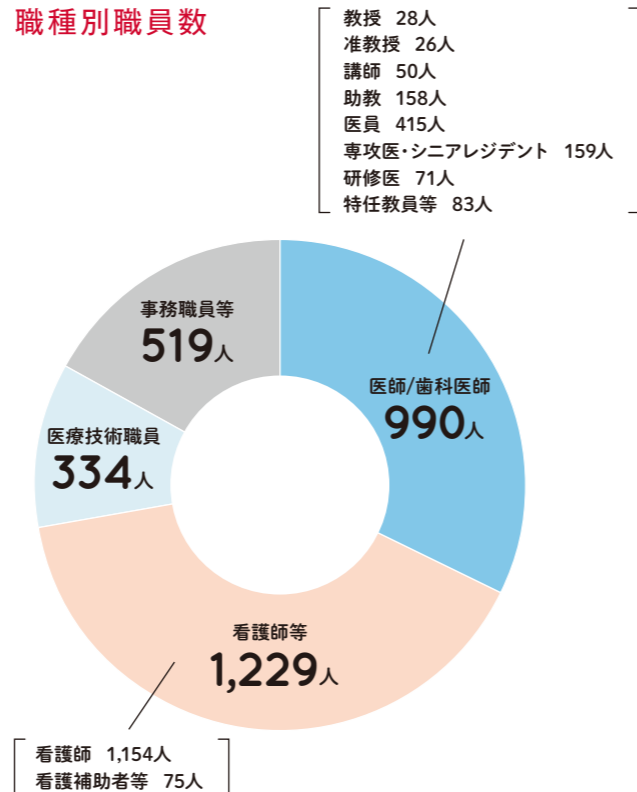
職員数

全職員数

3,072人 (2023年4月1日現在)

患者さんの治療には、医師・歯科医師、看護師をはじめ、薬剤師や管理栄養士、診療放射線技師、臨床工学技士、理学療法士など、それぞれに専門知識を持つ多職種の医療技術職員が働いています。当院では、多くの医療スタッフが緊密に連携をとりながら診療にあたる「チーム医療」に取り組んでいます。

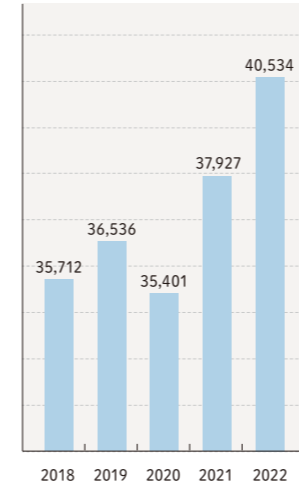
職種別職員数



病院実績

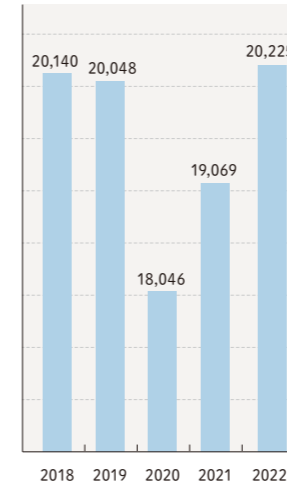
2022年度もコロナ対応が続き、病院運営に大きな影響がありましたが、これまでの経験と新たな工夫により、高度医療を提供する体制をスタッフ一丸となって整え、地域医療に貢献することができました。

診療報酬稼働額(百万円)



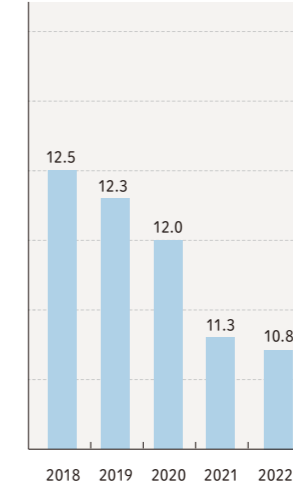
コロナの影響で2020年度に減少しましたが、コロナ診療と通常診療の両立を目指した経営努力により、2022年度は前年に続き増加しました。

新入院患者数(人)



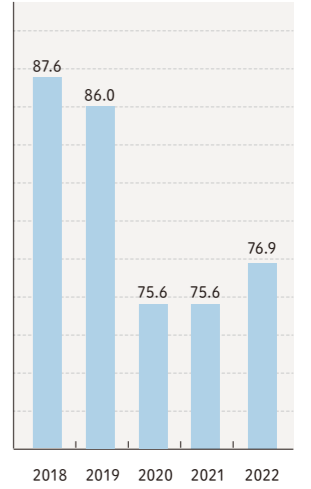
入院患者の受け入れを、コロナの影響で一時停止した病棟もありましたが、2022年度はコロナ禍以前の水準である2万人台に戻すことができました。

平均在院日数(日)



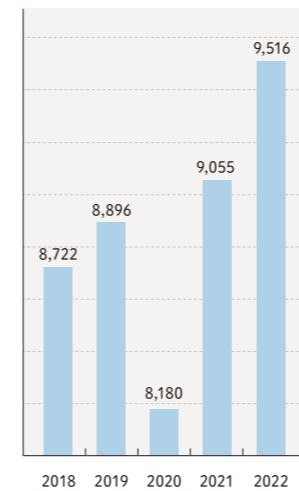
当院での治療を待つ患者さんを新たに受け入れるため、退院後の外来ケアや地域の医療機関との連携に力を入れて在院日数を短縮し、病床を有効に運用しています。

病床稼働率(%)



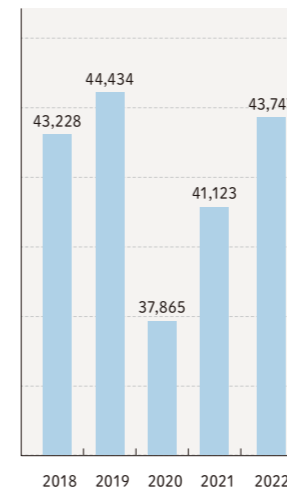
9割近かった病床稼働率が、コロナで8割を切り、2022年度はやや改善されたものの、コロナ禍以前と比べると低い状態が続いています。

手術件数(件)



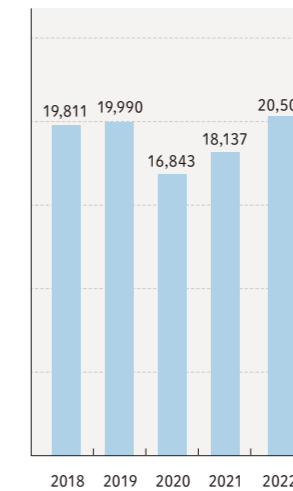
コロナ禍で手術の制限が続きましたが、各診療科の工夫と院内の連携により、2022年度は9,500件を超え、過去5年間で最多となりました。

新外来患者数(人)



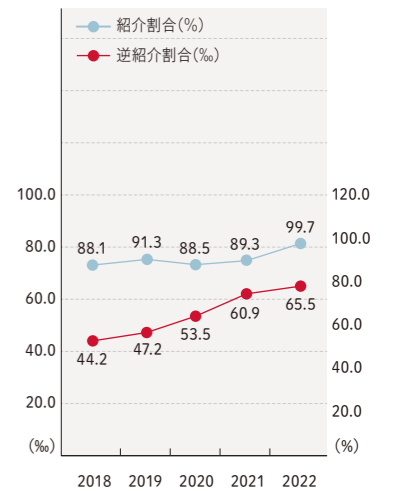
新外来患者数はコロナの影響を受けた2020年、2021年を大きく上回り、コロナ禍以前の水準である44,000人近くまで戻すことができました。

外来紹介患者数(人)



外来紹介患者数もコロナの影響で2年間減少しましたが、通常診療の体制整備と地域の医療機関との連携により、2022年度は2万人台に回復しました。

紹介割合(%)・逆紹介割合(%)

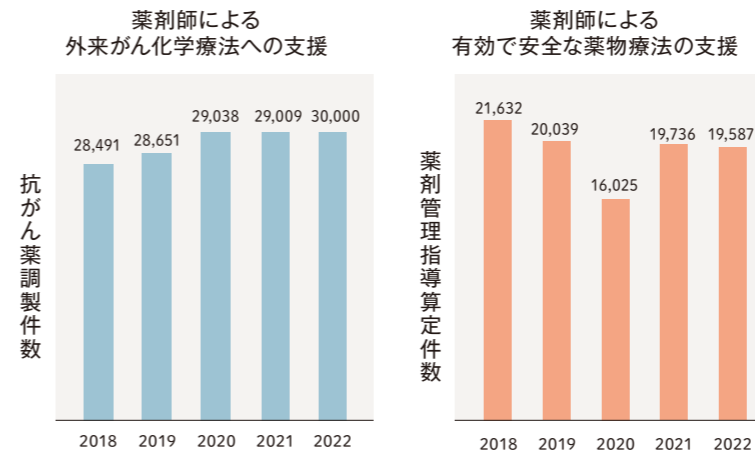


当院で高度医療を受けられた患者さんは、症状が落ち着いたら地域の医療機関に「逆紹介」し、地域全体で一人の患者さんを診られるよう、割合の向上に努めています。

診療科別の新入院患者数・新外来患者数・手術件数・病床数(2022年度)

診療科名		新入院患者数(人)	新外来患者数(人)	手術件数(件)	病床数(床)
内科	消化器内科	1,727	2,555	34	46
	血液内科	360	553	17	24
	腎臓内科	299	501	27	10
	アレルギー・膠原病内科	184	756	0	15
	糖尿病・代謝・内分泌内科	426	1,169	0	14
	循環器内科	1,654	2,949	250	38
	呼吸器内科	787	1,352	0	32
	和漢診療科	23	245	0	2
	感染症内科	0	385	0	0
	腫瘍内科	44	215	0	4
外科	心臓血管外科	476	454	504	25
	食道・胃腸外科	1,200	764	634	61
	肝胆膵外科	759	447	325	39
	乳腺外科	301	332	257	8
	呼吸器外科	594	495	385	22
	麻酔・疼痛・緩和医療科	9	4,131	6	4
	泌尿器科	898	1,055	548	23
	救急科	1,205	2,033	1	5
感覚運動	整形外科	906	2,529	1,031	44
	眼科	1,431	3,094	2,160	20
	皮膚科	306	1,913	229	10
	耳鼻咽喉頭・頭頸部外科	610	1,587	377	33
	歯科・顎・口腔外科	311	4,694	447	11
形成・美容外科	459	1,011	370	13	
脳神経・精神	精神神経科	358	521	332	45
	脳神経外科	927	1,089	494	30
	脳神経内科	439	1,396	1	22
小児・母性・女性	婦人科	1,046	1,202	431	25
	周産期母性科	774	801	321	18
	小児科	1,225	1,433	1	27
	小児外科	372	482	303	12
放射線	放射線科	49	708	0	3
総合	総合診療科	3	328	0	1
中央診療	人工腎臓部	26	9	31	1
	冠動脈疾患治療部	37	1	0	0
	内視鏡センター	0	4	0	0
	リハビリテーション部	0	251	0	0
	こどものこころ診療部	0	76	0	0
	遺伝子診療部	0	227	0	0

外来化学療法・薬剤管理指導 実績



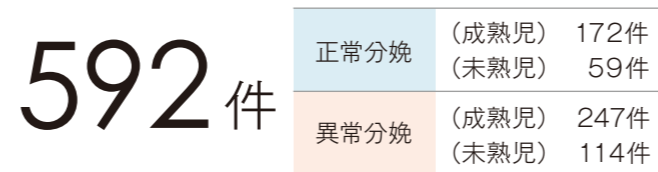
過去には入院して十分な観察下で行われていたがん化学療法が、薬物療法の進歩により普段の生活が続けながら外来で実施する時代となっています。抗がん薬の取扱いを熟知している薬剤師は安心・安全な化学療法をサポートするため、安全キャビネット内で無菌的かつ正確な抗がん剤調製を実施しています。

新たな効き目をもった医薬品が続々と登場し、病気の治療が進歩しています。薬の効果が高まる一方で適切に使用しないと副作用のリスクが高まります。薬剤師は薬剤管理指導(服薬指導)を通じて薬の正しい使用方法や管理方法、予想される副作用などについて患者さん説明し、医師や看護師と協働して有効で安全な治療を提供できるよう努めています。

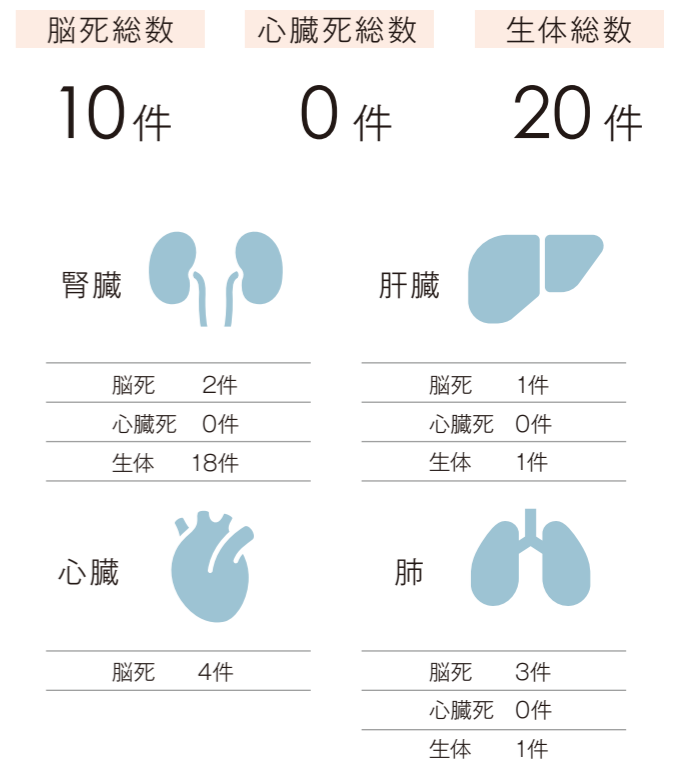
救急外来患者数(2022年度)

疾患	件数(件)
外傷	846
呼吸器系疾患	786
消化器系疾患	1,029
循環器疾患	634
泌尿器生殖器系疾患	603
脳血管疾患	261
代謝性疾患	165
新生物(腫瘍)	465
妊娠、分娩及び産じょく(褥)	443
その他	3,048
<b>総計</b>	<b>8,280</b>

分娩件数(2022年度)



臓器移植件数(2022年度)



臨床検査実績(2022年度)

中央採血室



外来診療時の静脈採血、糖負荷試験  
172,108件

生化学・免疫検査



[生化学的検査] 肝・腎機能検査など  
4,832,561件  
[免疫学的検査] 抗体検査、腫瘍マーカー、  
ホルモンなど  
473,273件

血液・一般検査



[血液学的検査] 血算、骨髄像、  
凝固能・線溶能検査など  
789,500件  
[一般検査] 尿定性、尿沈渣、尿定量、  
脳脊髄液検査  
210,785件

細菌検査



検体中の病原体検査  
71,102件

生理機能検査



呼吸循環機能検査、超音波検査、  
脳波検査、神経・筋検査  
63,594件

遺伝子検査



病原体、悪性疾患、  
遺伝性疾患などの遺伝子検査  
34,957件

画像診断・放射線治療実績(2022年度)

放射線治療



リニアック  
外照射/752名  
小線源治療/34名

CT検査



CT  
40,510件

MRI検査



MRI  
14,183件

一般撮影



ワイヤレス型フラットパネルディテクタ  
単純撮影/136,234件  
造影撮影/4,776件 骨塩定量/3,071件

血管造影検査



血管造影装置  
診断/1,486件  
IVR/1,999件

核医学検査



PET-CT  
RI検査/2,480件  
PET検査/1,958件

MR LINAC

1.5テスラのMRIと放射線治療装置が一体化したMRリニアックを日本初導入!

当院が日本で初めて導入したMRリニアックは、1.5T(テスラ)の高磁場を使って鮮明な体の断面像が得られるMRI装置とがん治療に用いるリニアックを一体化させた画期的な装置です。MRIで体の中をリアルタイムで明瞭に可視化することにより、呼吸などでがん病巣の位置が動いても、病巣を狙って照射することができます。照射範囲が最小化され、消化管など周囲の大切な臓器を守ることもできるのが最大の特徴です。主に外来通院で行われることから、仕事との両立なども可能で、外科療法・薬物療法と組み合わせることもできます。



MRリニアック治療実績

93件

(2021年12月~2023年3月)

前立腺がん	47件
肝臓がん	20件
膵臓がん	6件
腎臓がん	5件
その他	15件

(リンパ節、骨転移など原発以外への照射)

その他の内訳

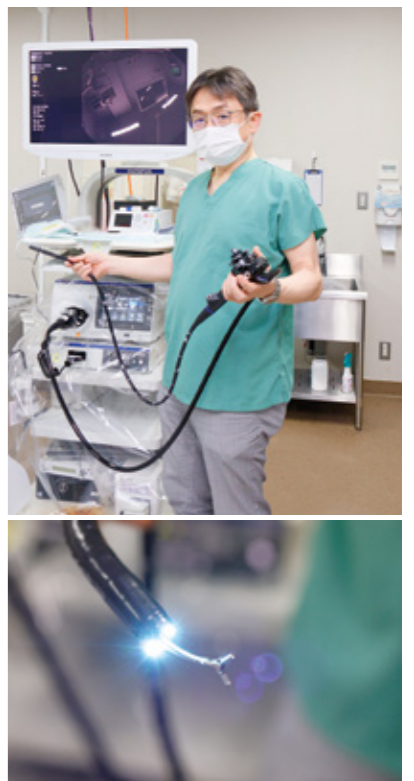
子宮頸がん	4件
前立腺がん	2件
肺がん	3件
卵巣がん	2件
食道がん	2件
胸腺がん	1件
膣がん	1件

内視鏡を最新モデルにリニューアルし、より早い病変の発見が可能に

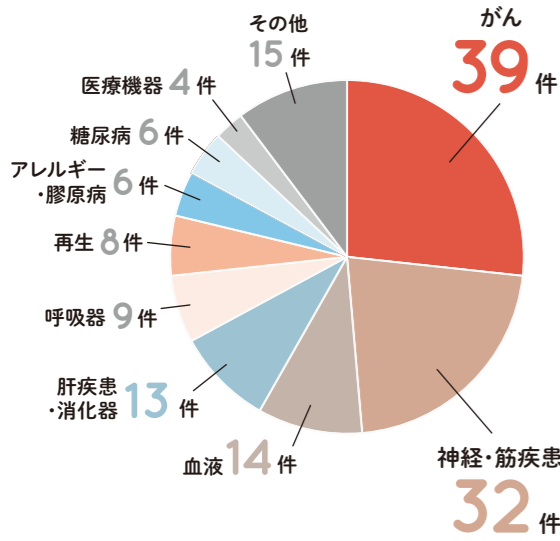
2023年3月、当院が所有する10台の内視鏡システムのうち、7台を最新モデルにリニューアルし、診療で患者さんに挿入する内視鏡本体も最新モデルになりました。高画質なのはもちろん、病変観察をサポートする「画像処理機能」が従来よりも優れたモデルであり、これまで以上に病変の早期発見と診断、低侵襲治療に力をいれてまいります。

(2022年度)

消化器内視鏡	検査	食道、胃、十二指腸	4,996件
		大腸	2,011件
胆膵内視鏡	治療 (早期がんの治療、止血、 狭窄拡張など)	小腸	138件
		食道、胃、十二指腸	710件
		大腸	571件
		小腸	40件
胆膵内視鏡	治療 (胆管、膵管のステント留置、 結石除去など)		807件
気管支内視鏡	検査		439件
	治療 (レーザー腫瘍焼灼、 ステント留置など)		20件



治験・自主研究実施件数

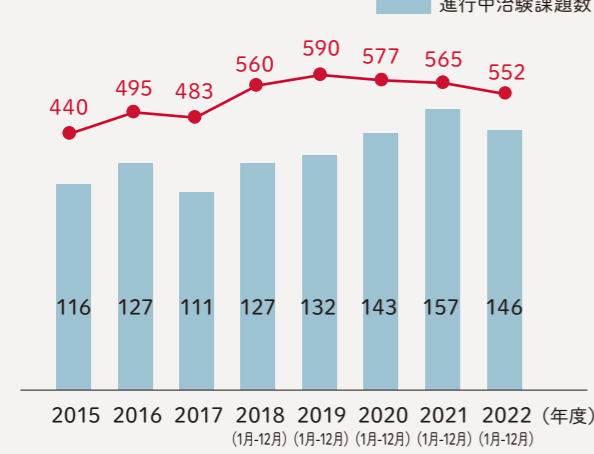


医師主導治験

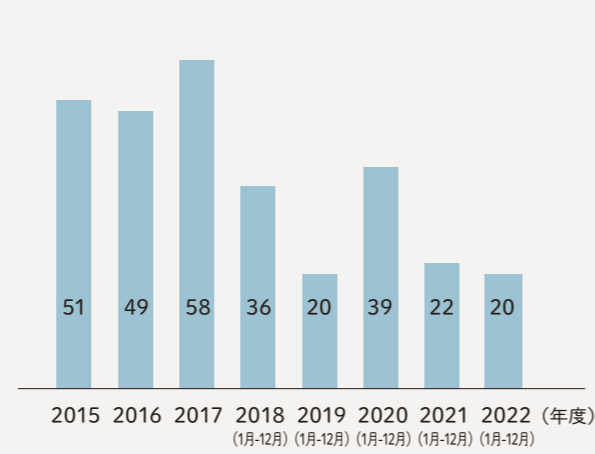
- ① 網膜色素変性を対象とした経皮膚電気刺激装置の有効性及び安全性を検証するシヤム対照二重遮蔽比較試験
- ② 脈管浸潤を伴う進行肝細胞癌患者を対象としたデュルバルマブ・トレメリムマブ重粒子線治療との併用療法の安全性と有効性を評価する第Ib相臨床試験
- ③ 家族性レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ(LCAT)欠損症に対するLCAT遺伝子導入前脂肪細胞の自家投与による再生医療／遺伝子治療の医師主導治験(投与後240週間)[長期継続試験]
- ④ 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するフルボキサミンの重症化予防効果に関するプラセボ照二重盲検無作為化比較試験 第二相試験

他6件

治験の契約数と症例数



自主臨床試験 年度別承認課題数(新規)



臨床倫理の基本方針

患者さんに対する姿勢

私たちは、患者さんの人権を最大限尊重するとともに、患者さんと協力し、患者さんにとっての最善の医療を提供します。

- ・患者さんの人権を守ります
- ・患者さんのプライバシーを保護し、職務上の守秘義務を遵守します
- ・医療内容について十分説明し、患者さんの自己決定権を尊重します

医療者としての姿勢

私たちは、生命倫理に関する関係法令、ガイドラインおよび院内規約等を遵守し、質の高い医療を実践します。

- ・公共の福祉と法規範を遵守します
- ・患者さん個人の価値観を大切にします
- ・品格を高く保ち、職責を自覚し、倫理的に振る舞います
- ・医療の安全管理に最大限の努力を払います
- ・多職種が互いに敬意を払い、協働するとともに、組織運営に参画します

研究等に対する姿勢

私たちは、臨床研究に関する関係法令、ガイドラインおよび院内規約等を遵守し、医療の進歩に必要な研究を実践します。

- ・医療の公共性を重んじ、社会の発展に尽くします
- ・倫理的な問題を含む臨床研究等は、十分審議のうえ、方針を決定します

紹介患者初診受付一覧表(医療機関の方へ)

紹介の留意点をご確認のうえ、紹介状を作成お願いいたします。

初診受付区分	
①	FAX予約が必要です。消化器内科脂肪肝外来、血液内科、食道・胃腸外科、呼吸器外科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、放射線科MRIリニアックは、医療機関からFAX予約をお願いします。
②	患者さん本人または医療機関の予約が必要です。当院ホームページの各診療科の受診案内をご確認のうえ、初診予約をお願いします。
③	予約は不要です。初診受付可能日に患者さん本人がご来院のうえ、受診手続きをお願いします。
④	FAX予約が可能です。医療機関からFAX予約による初診予約が可能です。
⑤	医療機関からの電話予約が必要です。

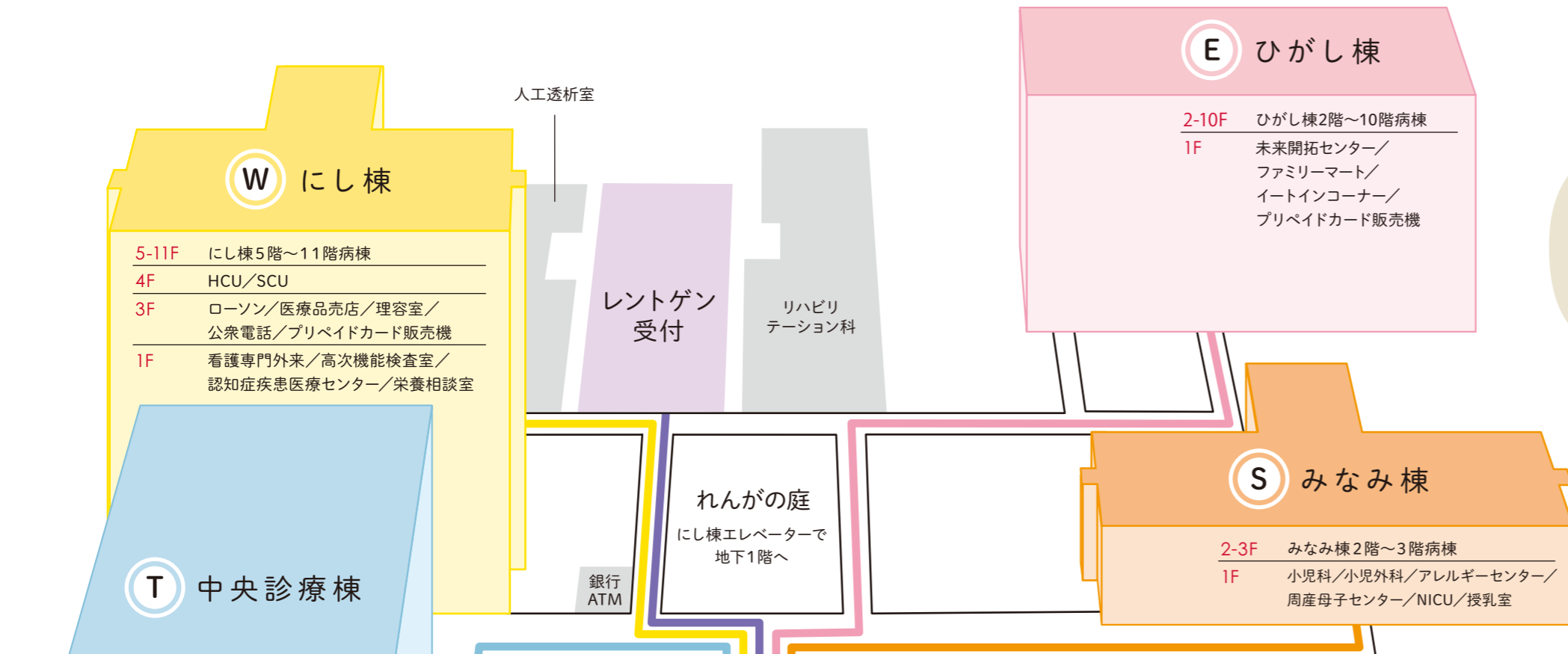
2023年3月現在

診療科名	初診受付区分	予約方法	FAX予約方法可能日 (医療機関のみ)	初診受付可能日					紹介の留意点
				月	火	水	木	金	
消化器内科	③④	不要 FAX予約(医療機関)可能	月~金(11:00)	○	○	○	○	○	
消化器内科 脂肪肝外来	①	FAX予約(医療機関)可能	月・水・木(13:00/13:30/14:00/14:30/15:00/15:30)	○	-	○	○	-	
血液内科	①	FAX予約(医療機関)可能	月~金(10:00/10:30/11:00)	○	○	○	○	○	
腎臓内科	②	電話予約(患者)	-	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	診療は午前のみ 腎腫瘍は診察しておりません。
アレルギー・膠原病内科	②④	電話予約(患者) FAX予約(医療機関)可能	月・木(9:00/10:00/11:00) 火・金(9:00/11:00) 水(9:00)	○	○	○	○	○	
糖尿病・代謝・内分泌内科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	肥満症は火曜日、脂質異常症は月・水曜日を推奨します。
循環器内科	③	不要	-	○	○	○	○	○	胸部X-P・ECG必須 (3ヶ月以内のもの)
呼吸器内科	⑤	電話予約(医療機関のみ) 平日 14:00~16:30	-	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	午前のみ	紹介状を当科外来へ事前に FAX(043-226-2713)が必要です。
和漢診療科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	予約は手紙・FAXのみ (和漢診療科HP参照) 新型コロナ感染後症状漢方外来は水曜日のみです。
感染症内科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	第1月曜日は予約不可。 真菌症は月・水・金曜日。
腫瘍内科	②	電話予約(患者)	-	-	○	-	○	○	
心臓血管外科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	
食道・胃腸外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・火・木(9:00/10:00/11:00)	○	○	-	○	-	痔は診察しておりません。 ヘルニアは要相談。
肝胆膵外科	③④	不要 FAX予約(医療機関)可能	月・水・金(9:30/10:00)	○	-	○	-	○	
乳腺外科	②	電話予約(患者)	月・水・金(10:30)	○	-	○	-	○	
呼吸器外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月・水・金(9:30/10:30/11:00/11:30/12:00)	○	-	○	-	○	
麻酔・疼痛・緩和医療科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	ペインクリニック外来:月・水・金 緩和ケア相談外来:月~金
泌尿器科	②	電話予約(患者)	-	○	○	-	○	-	頻尿・排尿困難・尿失禁は、予約取得日から受診日までの排尿記録が予約制(最低3日分)です。包茎は診察していません。
整形外科	③	不要 紹介状の宛名に「専門外来名」を必ず記載してください。	-	手の外科 リウマチ外来(鈴木医師宛のみ) PAM(午前) 側弯症外来(午後/第5週休診あり)	足外来(10:00から) 骨髄・頸椎外来(午後)	衝撃波外来(終日) 上肢外来、リウマチ・股関節外来(午前)	腰椎(第4週は新患対応不可) 痛みセンター	骨がん外来(第2・4週午前) スポーツ・膝外来(午後)	初診の場合は専門外来によって受付の曜日や時間が異なりますのでお問い合わせください。
眼科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金(8:30/9:00/9:30)	○	○	○	○	○	眼科医からの紹介状が必要です。
皮膚科	③	不要	-	○	-	○	-	○	紹介状を持参のうえ受診をお願いします。
耳鼻咽喉・頭頸部外科	①	FAX予約(医療機関)のみ	月~金(9:00/9:30/10:00/10:30)	○	○	○	○	○	補聴器外来:予約制(第2・4火曜日) 舌下免疫療法:予約制(月・水・金)予約制
歯科・顎・口腔外科	②	電話予約(患者)	-	○	○	-	○	○	
形成・美容外科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	
脳神経科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	中学生以上、他院の精神科・心療内科からの紹介に限る。
脳神経外科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	頭部画像必須(できればMRI/SB)
脳神経内科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	
婦人科	②	電話予約(患者)	-	○	-	○	-	○	
小児母性女性	②	電話予約(患者)	-	○	○	-	○	○	中学生以上、他院の精神科・心療内科からの紹介に限る。
小児科	③	不要	-	○	○	○	○	○	対象は中学生まで
小児外科	③	不要	-	○	○	-	○	○	満15歳以下
放射線科	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	
放射線科 MRIリニアック	①	FAX予約(医療機関)のみ	当院で指定した日時	-	○	-	-	-	FAX予約時に紹介状が必須です。判定の結果をお知らせします。
総合	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	セカンドオピニオン制です。
中央診療	③	不要	-	○	○	○	○	○	胸部X-P・ECG必須 (3ヶ月以内のもの)
こどものこころ診療部	②	電話予約(患者)	-	-	○	-	-	-	小学生以下 予約は2ヶ月1クール単位。
遺伝子診療部	②	電話予約(患者)	-	○	○	○	○	○	

# 各棟への連絡通路 (1階以外は連絡していません)

- 中央診療棟へ
- にし棟へ
- ひがし棟へ
- みなみ棟へ
- レントゲン受付へ

- エスカレーター
- エレベーター
- トイレ
- 車いす利用者用トイレ
- 多目的トイレ (オストメイト対応)
- 乳幼児用施設
- 公衆電話
- AED



## 外来診療棟

- 5F** 腫瘍内科/通院治療室/放射線科/和漢診療科/臨床研究センター
- 4F** 内視鏡センター/耳鼻咽喉・頭頸部外科/歯科・顎・口腔外科
- 3F** 婦人科/周産期母性科/泌尿器科/皮膚科/糖尿病・代謝・内分泌内科/腎臓内科/糖尿病コンプリケーションセンター/眼科
- 2F** 消化器内科/肝胆膵外科/乳腺外科/プレストセンター/食道・胃腸外科/循環器内科/冠動脈疾患治療部/心臓血管外科/アレルギー・膠原病内科/血液内科/造血細胞移植センター/呼吸器内科/呼吸器外科/感染症内科/肺高血圧症センター/検査部(採血・採尿/生理検査)/遺伝子診療部
- 1F** 脳神経外科/脳神経内科/認知症疾患医療センター/包括的脳卒中センター/総合診療科/高齢者医療センター/整形外科/患者支援センター/患者相談窓口/がん相談支援センター/周術期管理センター
- B1F** 麻酔・疼痛・緩和医療科/形成・美容外科/緩和ケアセンター/精神神経科/こどものこころ診療部/認知行動療法センター/薬剤部/投薬窓口・在宅物品渡し口

## 採血・採尿、心電図・エコーなどの検査は外来診療棟の2階へ

